

vol.29

日新鐘

集おう 語ろう つながろう!

～同じ学舎の仲間たちと～



第63回 甲府中学・甲府一高東京同窓会

当番幹事：昭和59年卒

July 2023

第63回 甲府中学・甲府一高東京同窓会 記念誌

環境への想いをかたちに



真心と確かな技術

株式会社

早野組



本社 ■〒400-0807 山梨県甲府市東光寺一丁目4-10

TEL.055-235-1111(代) FAX.055-235-1109

■営業本部 TEL.055-232-8686

■早野リパブル TEL.055-268-3333

■東京支店

■中部支店

■新宿営業所

■静岡営業所

東京都八王子市千人町二丁目5-24

長野県飯田市上郷飯沼1438-1の3 11階

東京都新宿区四谷二丁目117番107号 17階

静岡県富士宮市外神2219-1リバーサイドハイック外神202号室

TEL (042) 667-8800

TEL (0265) 22-3969

TEL (03) 3352-8700

TEL (0544) 66-5454

FAX 667-9497

FAX 52-2171

FAX 3352-8710

FAX 66-5455

URL <https://www.hayano.co.jp>



山梨縣立甲府中學校校歌

昭和3年10月23日制定
作詞／三井 甲之
作曲／東京高等音樂學院

一、我等は日本に生まれたり
神の御代より一系の
皇統戴く我國に
生まれしことのうれしさよ
皇國の榮えは天地と
共に窮りなかるべし

二、大和島根に山めぐる
甲斐の國あり水清き
郷土の歴史顧みよ
我等の務め輕からず
見よや南に富士ヶ峰は
皇國の鎮めと聳えたり

三、大海原の揺りやまぬ
波をも風をも凌ぎつつ
護れ皇國を諸共に
國民舉りて國のため
撓まず萎縮まず辟易がず
進むぞ大和ごころなる



山梨県立甲府第一高等学校校歌

昭和23年10月22日制定
作詞／上条 馨
作曲／小松 清

一、甲斐の国 みに建ちて
古へゆ 雄心伝え
新しき 世の鑑とし
勉めてむ この學舎に

二、日に新た また日に新た
弥高き のぞみをもちて
真なる 理究め
励みなむ 若人我等

三、聳え立つ 芙蓉の高根
清き哉 甲斐の山川
もろともに 玉と磨きて
賛くべし 天地の化育



日新鐘に寄せて



東京同窓会
会長 清水 昭

昨年は四年ぶりとなるリアルな東京同窓会を母校安達徹校長、丹沢良治同窓会長、恩師田中資時先生をお迎えして開催できた。準備にあたった三井貴美也当番幹事長、三浦博美事務局長をはじめ、昭和58年卒当番学年と役員・幹事の皆様から御礼を申し上げます。

総会を終え、懇親会では催し其の一「一〇〇人の声」、其の二「新たな絆を作る名刺交換会」、其の三「変わりゆく山梨に帰ろう」、其の四「平成の会結成式」など盛りだくさんの企画があり、旧制中学卒と平成卒の同窓が名刺交換を通じて、繋がり合う光景を目の当たりにし、リアルの会はいいなあ、同窓会活動を続けてきて良かったな、との声を沢山聞いた。

佐藤公彦懇親部会長の打ち上げ会での、ほっとした中にも満足感溢れる顔は、今でも忘れられない。同窓会の再会を楽しみにしていたが、今年の三月末日に急な病のため帰らぬ人となってしまった。有能な同窓の友を失い、涙を禁じ得ない。佐藤君 有難う。君の思いは平成の会の皆が受け継いでくれることを確信し、心からご冥福をお祈り申し上げる。

今年の東京同窓会のテーマが「集おう 語ろう つながろう！〜同じ学舎の仲間たち〜」である。一年間、周到な準備をしてきた森川茂樹幹事長、中田正久事務局長、昭和59年卒当番幹事メンバーの、再び繋がり（同期や先輩後輩）をつくること、それぞれの輝きが見えることを実現したい。

そのためには集い、語り合い、繋がるのが大切であるとの思いを込めたものである。

我が東京同窓会が当番学年幹事らの思いとともに、未来のために有意義な活動を続けていける組織となるよう祈念する次第である。

ご挨拶



甲府第一高等学校
校長 安達 徹

甲府中学・甲府第一高等学校東京同窓会が、当番幹事の皆様と役員の方々の御尽力により盛大に開催されますことを心よりお慶び申し上げます。同窓生の皆様には、日頃より母校甲府一高の教育活動に対し御理解と御支援・御協力を賜り、衷心より感謝申し上げます。

なかでも、伝統の強行遠足につきまして、昨年度は4年ぶりに男子が小諸までの104km、女子が小海までの41.6kmの本来のコースで実施することができ、総勢300人の同窓生が夜を徹して協力くださり、自らの限界に挑んでいる生徒たちを優しく力強く後押ししてくださりました。

母校の状況ですが、部活動では山岳・アーチェリーがインターハイに、弓道が東日本大会に出場し、さらに空手部が全国高校選抜大会団体組手3人制において3位に入賞する活躍を見せました。文化部では県下最多の6部門（弦楽・美術・写真・放送・文学・茶道）で全国高校総合文化祭に出場することになっています。進学では、昨年度国公立大合格一〇九名、私立大四八七名と健闘し、近年安定した実績を残しております。また今年度新たに「ワールドワイドラーニングコンソーシアム構築支援事業」の拠点校に指定され、よりグローバルな視点での教育活動・探究活動の展開が可能となりました。

今後も、多くの同窓生のお力添えをいただきながら、甲府中学・甲府一高の伝統を受け継ぎ、日本で、世界で活躍する人材の育成を目指して教職員一同努力して参ります。

結びに東京同窓会の益々の御発展と、同窓生の皆様の御健勝を祈念し、御挨拶とさせていただきます。

ご挨拶



東京同窓会
令和五年度
幹事長 森川 茂樹

十代の多感な時期を甲府市美咲の学舎で過ごし、今は社会の各分野で経験を積まれた卒業生の皆様と、年に一度お目にかかることができる節目のイベントを、今年も京王プラザホテルで開催できることを嬉しく思います。

高校時代を思い返せば、入学早々に応援練習の洗礼を受け、一高祭や強行遠足、部活や試験などで、あつという間に過ぎた3年間でしたが、学生生活での思い出と共に多くの友人にも恵まれました。

また我が校ならではの行事である日本一の距離の強行遠足は、在校した誰も心に残る経験であり、仲間と励まし合い一緒に乗り越えることで、その後の人生における大きな糧を得た場でもありました。

世界的な感染症のパンデミックにより、人と人とのつながりは大きな制約を受けました。日々の生活様式や仕事のスタイルも大きく変わり、親族の住む山梨への帰省できなまま、故人を見送らなければならないほどの悲しい経験もありました。改めて生きることの意味、人生の意義を見つめ直す機会にもなったと感じています。

今年のテーマは「集おう 語ろう つながろう！〜同じ学舎の仲間たち〜」としました。

世代も生き様も多様な同窓の皆様と知り合い、つながりを持ち、一度限りの人生に厚みを持たせ、豊かな毎日を送るべく、新たな絆を育んでいきたい。

本日も皆様と楽しい場を創っていききたいと思っております。

よろしくお願いたします。

第63回 甲府中学・甲府一高 東京同窓会
記念誌 日新鐘Vol.29

目次

山梨縣立甲府中學校 校歌
山梨縣立甲府第一高等學校 校歌

ご挨拶 2

一高探訪記 その壺 4

一高の歴史 7

一高探訪記 その式 9

一高写真館 12

一紅会 16

コロナ禍で頑張った仲間たち
寄稿文 望月高行 18

鈴木至郎 20

三枝裕和 22

深沢孝之 26

長坂康史 28

青柳広美 31

同窓生の繋がり
日新会ゴルフ 33

201ゴルフ会 34

湘南同窓会 35

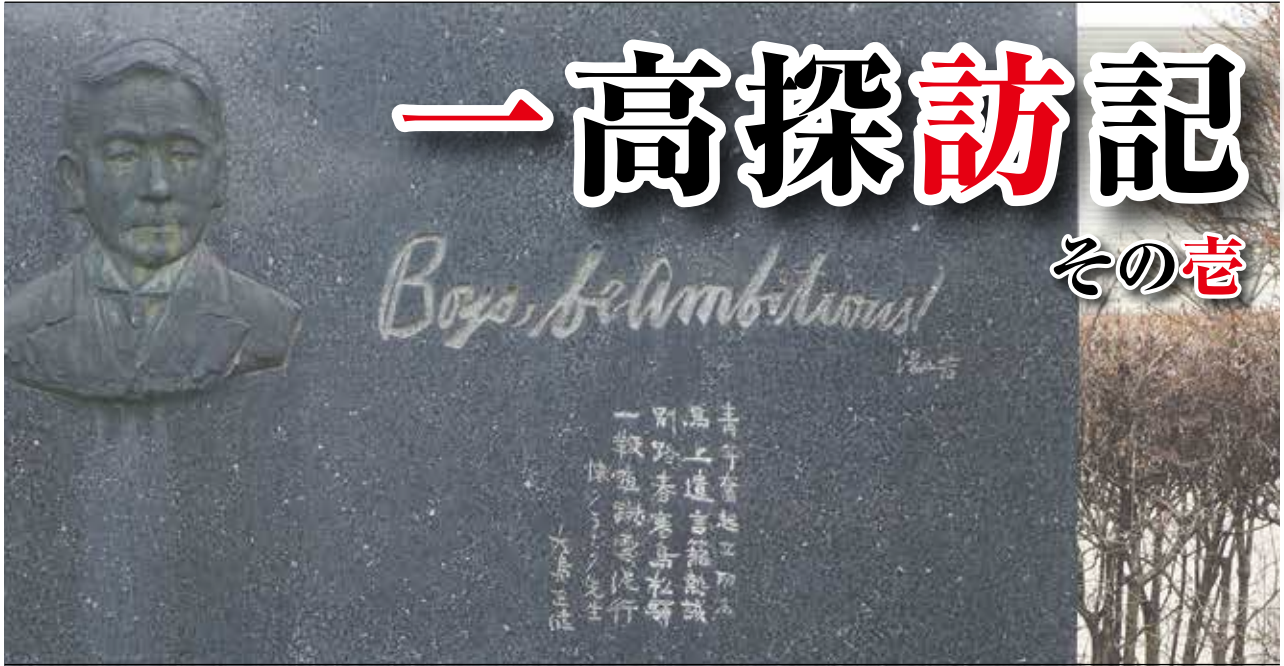
あおぞら会 36

寄稿文 赤澤 泰 38

同窓生の集まるお店紹介 41

..... 41

広告 42



一高探訪記

その巻



今の一高の校舎はどんな感じになっているんだろう。そんな思いで甲府一高を訪ねてきました。
 今回は学校のご協力をいただき、校舎の中も撮影させていただけることになりました。
 訪問したのは、東京同窓会の学年幹事である59年卒業生。ご協力いただいたのは、甲府一高放送部の皆さんです。
 訪問したのは三月中旬まだ少し肌寒い季節でした。

●正門から校内へ

最初は学校の外からです。新しい校舎ですが、何となく昔の雰囲気も残っています。校門へ向かう道もちょっと変わったかなと思いつながら見ていると、道路の右側に大きな違和感がありました。

我々一高生のオアシスであった「前店」「横店」がありません。聞くところによると、もう何年も前に閉店されていたようです、今ではちよつと買物物にということも無いようで、少し残念です。久しぶりに横店のピザパンとか買ったかったですけどね。

気を取り直して校門から中に入ってみるとロータリーの後ろに正面玄関。これは昔と同じですね。ロータリーに向かって左には百周年記念館。我々59年卒が在校時から残っている唯一の建物です。

百周年記念館の二階には演劇部の公演予告の張り紙がありました。正面玄関横には立て看板も置いてあります。

演劇部は、新入生歓迎公演を行うそうですが、二週間で異なる二演目の上演と相当気合が入っています。後からも出てきますが、現在の甲府一高はこういった芸術や、クリエイティブな活動に力を入れており美術系や音楽系の部の部員も数多くいるようです。

ロータリーの奥には正面玄関があります。ここは基本的に来校者向けの玄関となっております、その点は私たちの時代と一緒にですね。



正面玄関の「賛天地之化育」の文字盤は旧校舎のものをそのまま移設したそうです。正面玄関前で、放送部の皆さんと待ち合わせして、これから一緒に校内を回りたいと思います。

●**体育館**

はじめは体育館です。場所は旧体育館があった場所と同じですが、校舎から内廊下で直結し、内部は二階建てと全く新しくなっています。

一階の入り口には「健全な精神は健全な肉体に宿る」の文字が掲げられ、移設された彫像が置かれています。この彫像は、昭和30年に美術の先生だった須藤獏先生が作成されたものです。



体育館の外観は昔とはかなり違っています。また、建物自体も大きくなっているようです。中はどうなっているのでしょうか。中に入ってみましょう。

まず、一階には柔道場と剣道場。それに加えてなんとマシンルームもあります。59年卒の私たちが在校していたころにはまだありませんでした。皆さんここでトレーニングに励んでいるのでしょうか。旧体育館に比べて広くなっており、窓も大きいため、明るく練習しやすくなっているのではないのでしょうか。二階の上がるとそこは体育館というイメージ通りの場所でした。バスケットボールのゴールや、正面にステージがあります。記憶がいまいですが、昔より広くなっているような気がします。



体育館を出るとちょうど甲府一高のマイクロバスが帰ってきました。このマイクロバスは同窓会から寄贈されたもので、これが二台目となります。部活の試合や遠征のときなどに使われています。



●校舎内（美術室）

それでは校舎の中に入りましょう。初めに紹介するのは美術室です。今の一高のキャッチフレーズは『文化の香りがする懐の深い進学校』です。運動部の活動も盛んですが、文化部もとても盛んで、昨年は全国高等学校総合文化祭、総文祭にこれらの文学部、美術部、写真部、ア・カペラ部、書道部、吹奏楽部、箏曲部、放送部が参加しました。県内の高校で、八つの部が参加できるところはあまりありません。

美術部は顧問の石田先生を慕って受験する生徒もいるほど人気があります。美術室だけではなく、校舎中に作品が展示されています。美術部だけではなく、書道部など他の部の作品もいろいろなところに展示されています。

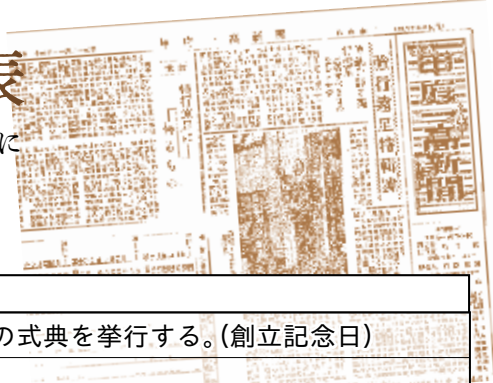


一高の校内紹介のその巻はここからです。その式でも引き続き校内を紹介していきます。

甲府中学・甲府一高 歴史年表

甲府中学・甲府一高の歴史を公式資料のほかに一高新聞の記事も参考にして年表を作成しました。

母校の歴史をまた新しい視点から見るができるかもしれません。



和暦	西暦	できごと
明治13	1880	山梨県中学校が師範学校内に併設される。同月23日開校の式典を挙げる。(創立記念日)
明治15	1882	徽典館と改称
明治33	1900	旧甲府城内に新築、移転 運動部(柔道科・撃剣科・遊技科)、学術部、編集部、庶務部ができる
明治39	1906	山梨県立甲府中学校と改称
明治44	1911	同窓会創立
大正12	1923	庭球部全国制覇
大正13	1924	第1回強行遠足(1回目の名前は遠足運動)
昭和 3	1928	現在地に新校舎竣工、移転、校歌制定
昭和 4	1929	安田講堂をモデルに講堂落成
昭和 5	1930	創立50周年記念式挙げる
昭和10	1935	甲子園出場(甲府中学、山梨県初)①
昭和20	1945	戦災のため生徒控所、小講堂、特別教室、新館を焼失、本館だけ残る。強行遠足中止
昭和23	1948	山梨県立甲府第一高等学校と改称する 全日制・定時制・通信制を設置 新しい校歌出来る 選考委員長は飯田蛇笏 甲府一高新聞創刊 第1回文化祭当日発表会
昭和24	1949	県総体総合優勝
昭和25	1950	男女共学を実施女子110名、男子550名、強行遠足(男子24時間 女子6時間) 女子初参加 学区制設定
昭和26	1951	終戦後初の修学旅行 2年生関西
昭和27	1952	現在の校旗が作られる
昭和28	1953	初の女子卒業生
昭和29	1954	北海道国体でサッカー一部準優勝
昭和30	1955	体育館落成
昭和31	1956	籠球部(ろうきゅう、バスケット部)県大会優勝
昭和32	1957	滑空部(グライダー)に米軍からヘルメット送られる サッカー一部県下高校サッカー大会優勝 強行遠足33回、24時間で最高167.1キロ(長野県大町市築場) 第1回生徒総会 図書館、化学特別室、定時制給食室完成 2学期制から3学期制に
昭和34	1959	伊勢湾台風のため強行遠足中止
昭和35	1960	同窓会東京支部・関西支部発足 学校新聞コンクール優勝、応援団吹奏楽部初の演奏会
昭和36	1961	武道場を移転して体育館横に増改築 創立80周年記念日新ホール落成 甲子園出場②
昭和37	1962	強行遠足 コースを小諸方面に変更 女子のスタートが箕輪新町に 高校総体で登山、バスケット優勝 3学期から授業の開始と終わりが日新鐘からチャイムへ
昭和38	1963	強行遠足 小諸方面へ変更 男子17時間 女子5時間 男子終点中込(87キロ)
昭和39	1964	東京オリンピック 聖火リレー生徒が3名参加 OBがサッカー日本代表ゴールキーパーで出場 1年生の身延山研修会始まる
昭和40	1965	コンクリート造西館落成 強行遠足 男子20時間・終点小諸(約100キロ) 女子5時間・三軒屋から小海
昭和42	1967	2年生修学旅行から研修旅行へ変更、志賀高原方面へ

和暦	西暦	できごと
昭和43	1968	総合選抜制度実施 南高と二校で 生徒会誌「日新鐘」創刊 ストーブ設置(同窓会から35台のストーブ寄贈) 甲子園出場③
昭和46	1971	強行遠足 男子21時間 女子5時間
昭和47	1972	北館竣工、憩いの庭完成 強行遠足 女子のスタートが高根東小からになり、6時間へ
昭和48	1973	購買パンの自由販売
昭和49	1974	本館前庭園完成 定時制・通信制課程廃止
昭和50	1975	強行遠足 女子8時間に 総合選抜 甲府第二高等学校が加わり三校に
昭和52	1977	総合選抜 東高が加わり四校に
昭和53	1978	弓道部・軟式庭球部・空手部総体で優勝
昭和55	1980	百周年記念式典
昭和56	1981	百周年記念館竣工
昭和59	1984	総合選抜 甲府昭和高加わり五校に
昭和60	1985	強行遠足記念像完成
昭和61	1986	校歌碑完成
平成元	1989	弓道場完成 文化部部室棟 朱光館完成 一高祭が9月から6月に変更 平成3年に一度9月に戻るも、その後再度6月に
平成 3	1991	強行遠足 女子のスタートが須玉小からに 英語科設置
平成 4	1992	屋外プール、管理棟完成
平成 5	1993	新校舎完成 新体育館完成、移転 同窓会より新体育館の緞帳、演台を寄贈
平成 6	1994	文化創造館 日新館 完成 石橋湛山先生胸像完成 同窓会寄贈
平成 8	1996	応援歌「一高アトム」追加 インターネットの接続環境が整う マイクロバス購入
平成13	2001	2年生研修旅行長崎方面
平成14	2002	完全週5日制に
平成15	2003	強行遠足 男子11時間 女子7時間へ 男女とも終点野辺山(男子約54キロ)
平成17	2005	ヘンリー高校(オーストラリア)姉妹校締結
平成18	2006	2学期制開始
平成19	2007	全県一区の単独選抜高校入試実施 同窓会よりワゴン車寄贈
平成20	2008	強行遠足 男子16時間 女子7時間半 男子終点小海(76キロ) 女子終点野辺山(30キロ)
平成21	2009	同窓会より自習室寄贈 マイクロバス更新
平成22	2010	夏の制服追加 男女とも半袖ポロシャツ、女子はチェックのスカート2種
平成23	2011	強行遠足検印にバーコード認証を導入 甲府第一美術館(校舎内を美術館にして展示)が始まる
平成24	2012	2年生研修旅行 沖縄
平成25	2013	男子24時間 女子9時間 事故後再び男子終点小諸(105キロ)になる 女子高根から小海(43キロ) 普通教室にエアコン設置
平成26	2014	文部科学省”スーパーグローバルハイスクール”(SGH)に指定される
平成28	2016	探求科設置
令和 2	2020	学食復活 日新館1階 同窓会よりワゴン車寄贈
令和 3	2021	女子の制服スラックスが採用され、その時はネクタイ着用
令和 4	2022	強行遠足 コロナで中止していたが再開 3年生は最初で最後
令和 5	2023	「ワールドワイドラーニング(WWL)コンソーシアム構築支援事業」の指定校になる

一高探訪記

その貳



ここからは一高の校内紹介その貳です。最初は自習室です。自習室は創立一三〇周年記念事業として同窓会から寄贈されました。パーティションで区切られた自習机があり、朝と放課後、土日にも使うことができます。多くの生徒たちが利用しています。自習室の中の本棚には、先輩が寄贈したのでしょうか、赤本（大学別の入学試験の過去問題集）がたくさん置かれています。自分の高校時代を少し思い出しましたが、生徒の皆さんにはぜひ希望を達成していただけるよう願っています。



次は視聴覚室の紹介です。階段状の机が並んでおり講堂としても使えるような造りになっています。

壁には同窓生から寄贈された絵画や書が数多く飾っており、また一三〇周年の際、同窓会が寄贈した学校の歴史に関するパネルが多数展示されています。このパネルには、甲府中学・甲府一高にかわりのある先生や先輩について書かれています。



飯田蛇笏
 いいだ だこつ Dakotan Iida
 本名: 飯田 武治(いいだ たけじ)

1885(明治18)年~1943(昭和17)年
 京八代藩 五津村(旧塩川村、現在の高崎市)出身。
 1898(明治31)年、甲府中学入学。
 1903(明治36)年、京北中学に転入。
 大正・昭和期の代表的な俳人で、近現代における俳句雑誌の实践者の一人であり、關東山縣縣城川の地に拠り、独自の風尚・道厚な作風で知られる。

上京中は高橋虚子に師事するが、1909(明治42)年に郷里塩川に隠居した。虚子の俳壇復興とともに句作を再編し、「ホトトギス派」の中心作家として活躍した。1917(大正6)年、堂島路で発行されていた俳誌『ホトトギス』の主宰者となり、誌名を『ホトトギス』から『風流』に改め、1925(大正14)年に発行所を甲府市に移した。以後、『風流』の誌社は発展を遂げ、俳誌『ホトトギス』のグループに次ぐ全国的な勢力を働くこととなった。

代表作、「雪の降る山影を正しうす」(1914(大正3)年作『山嵐集』所収)、「くろがねの歌の風勢鳴りにけり」(1933(昭和8)年作『龍之』所収)に見られるように、郷土の地で、山嵐の生憎に凝じた、風厚で格調高い句は今も人々を惹きつけてやまない。

視聴覚室では放送部の皆さんに現在の制服を紹介していただきました。昔からの制服は引き続き使われていますが、新しい制服も導入されています。

女子生徒向けの新しい制服として、ブレザーとストラックスが取り入れられました。蝶ネクタイではなく普通のネクタイになっています。

また、男女ともに白いポロシャツも選ぶことができます。夏服にぴったりの涼しげなデザインとなっています。

ポロシャツの胸元にはクラーク博士像のワンプイントが入っており、このワンプイントはベストの胸元にも入っています。

体育着も昔と少し違ってスタイリッシュになっています。学年ごとに赤・青・緑の三色にわけられているのは昔のままです。



●アトリウム

次はアトリウムです。ここには日新鐘が置かれています。日新鐘を鳴らしていただきましたが、数十年ぶりに聞いた鐘の音はとても



澄んでいました。在学中に何度も聴いたわけではありませんが、少し昔のことを思い出しました。

アトリウムはぐるっと校舎に囲まれている、職員室と視聴覚室に挟まれています。地面にはタイルで一高の校章がデザインされています。

ここで、今日校内を案内していただいた放送部の皆さんと記念撮影をしました。皆さんは撮影が終わって私たちが帰るまで待っていていただき、お見送りまでしていただき、本当にありがとうございました。

●校舎の周り

最後に、懇親会の動画では紹介しきれなかった校舎の周りを紹介します。

まず、生徒昇降口。いまは、校内は上履きを履くことになっているため、生徒はここで上履きに履き替えます。生徒昇降口の上の方には、正面玄関と同じ旧校舎をイメージしたデザインになっています。

生徒昇降口の向かい側には二階建ての自転車置き場がありました。その裏手から校庭方



向に部室棟が二つあります。撮影した日はお休みの日だったので人はいませんでしたが、平日には多くの生徒でにぎわっていることでしょう。



校庭の広さは昔と変わりませんが、バックネットやプールなどが新しくなっているようです。



以上駆け足で現在の甲府一高の校内を紹介しましたがいかがだったでしょうか。ここで紹介しきれなかった写真は別に一高写真館のページを設けていますのでご覧ください。

懐かしい高校時代に想いを馳せ、楽しい時間を過ごすことができました。今後も同窓生の繋がりを大切にしていこうと改めて感じることができました。

甲府一高 写真館



“Boy’s be ambitious” の碑



正面玄関の校名碑



日新鍾



日新鍾



アトリウムのタイルでデザインされた校章



校舎内から見たアトリウム



美術室の廊下



書道部の部室と展示



校舎の廊下



音楽室



作法室



視聴覚室



屋上から見る校舎



校舎 4 階から見る校庭



校舎から見る景色（湯村方向）



校舎から見る景色（市街地方向）



部室棟



プールとテニスコート



石橋湛山の書



“Boys be ambitious”の書



校長室



校長室の望月春江画伯（大正2年卒）「鯉」



日新館（学食）



百周年記念館

日新鐘に寄せて



一紅会会長
峯川文江

去る3月18日(土)「第24回 一紅会主催春の講演会」を開催いたしました。同窓の皆さまをお迎えしての開催は、2019年第22回講演会より4年振りでした。当日は、朝から小雨が降り、開始時間も午前10時という早い時間でしたので、主催者としてはキャンセル者が多いのでは・・・と心配いたしました。しかし、150名近い皆さまにご参加いただき、時間通りに講演会も運営されて、幹事一同、ホッといたしました。

今回は『防災文化を継承し レジリエント社会を形成していくために』というテーマで、防災の第一人者「今村文彦」氏をお迎えしての講演会でした。耳慣れない「レジリエント社会」という言葉に興味をそそられました。一紅会にとっても、12年前の東日本大震災は「第14回春の講演会」の前日に起こった地震でした。最近は大雨による災害も頻繁に起こっています。先日のゴールデンウィーク中に起きた能登の地震は、何時でも、何処で

も、誰にでも、災害は突然降りかかるものだと思います。備えることで救える「いのち」があり、学ぶことで助かる「いのち」がある、正に「教訓が、いのちを救う」というメッセージを改めて認識しました。不安な昨今に、非常にタイムリーな内容の講演だったと思いました。



さて、一紅会の活動も少しずつ変革していきます。講演会の準備も、当番幹事だけでなくPJメンバー全員で情報共有し、打合せ会を開き、準備していくようにいたしました。

平日の夜開いていた幹事会を、6月には初めて日曜日の午後に行いました。来年の講演会は、第25回目となります。発足以来、先輩

方々が慈しみ育ててきた一紅会が、更に、変わりゆく時代に合わせた活動しやすい会となるように目指して参ります。今後とも同窓の皆さまのご支援ご協力を心よりお願い申し上げます。

甲府一高東京同窓会 一紅会
Webサイト <https://1kokai.kf1-tk.jp/>
お問い合わせ info@kf1-tk.jp





東日本大震災の教訓

- ・我々は備え以上のことはできません。
- ・危機管理と対応計画は、最悪のシナリオに基づいている必要があります。
- ・事前防災(取組)は確実に被害を軽減できますが、ゼロにはできません⇒
- ・不確実な状況下での判断と対応が必要です。
=> そのためにはレジリエント社会(回復力)構築が必要
- ・皆さんと想いを伴に、そして想いを行動に

TOHOKU logo and URL: https://www.311deasho.or.jp



一紅会春の講演会に参加して

一紅会の「春の講演会」に参加させていただきましたので、そのご報告をさせていただきます。峯川会長と重なる部分もありますがご容赦ください。

一紅会の活動の一つとして「春の講演会」を開催しています。各界から講師の先生をお呼びして、幅広いテーマで講演していただいております。新型コロナウイルス感染症の影響で講演会を開催することができない時期もありましたが、今年は対面で開催することができました。

令和5年は3月18日、講師に東北大学災害科学国際研究所所長・教授 今村文彦氏を迎え、青山の「東京ウィメンズホール」で開催され、一紅会会員以外の方にもご参加いただきました。今村先生は昭和55年に甲府一高を卒業され、東北大学工学部へ進学。その後大学院を修了され、同大学の助教授、教授を経て現在は東北大学災害科学国際研究所所長・教授をされています。

講演のテーマは「防災文化を継承しレジリエント社会を形成していくために」東日本大震災の教訓をつないでいく〜でした。先生の所属される東北大学は仙台市に所在し、東日本大震災の際には校舎などの建物や研究室の機器が壊れるなどの被害を受けました。

仙台以外でも大きな被害をもたらした東日本大震災ですが、その被害とその後の復旧などを分析し、その教訓を今後に生かしていこうと

いうものです。

講演で先生がお伝えしたいこととして挙げられたメッセージは「教訓が、いのちを救う」ということでした。震災をはじめとした災害は、いつ起こるか分からない上に事前に防災の備えをしても、被害を軽減することはできません。ゼロにするには事前に防災の備えをすることはできません。そのため、レジリエント社会(回復力)構築が必要であるということです。

先生のお話とともに、私たちが経験したことを次の世代に伝えていきたいと考えております。

今村先生にはこの場を借りて改めてお礼を申し上げます。本当にありがとうございます。

第24回 一紅会主催 春の講演会

**防災文化を継承し
レジリエント社会を形成していくために**

～東日本大震災の教訓を繋いでいく～

講師 東北大学災害科学国際研究所所長・教授 今村文彦氏

今世紀になり、地震や津波、新型コロナウイルスによるパンデミックなど、私たちは様々な災害と向き合わなければならない状況となっています。レジリエンスとは「回復力」「耐性」もしくは「しなやかな強さ」と訳され、災害に対して各自が協力し合い迅速に回復可能な「レジリエント社会」の構築が重要となります。想定外の事態において自分と大切な人を守るために、私たちはどのように行動したら良いのかお話しさせていただきます。



講師プロフィール(略歴)

- 昭和55年 甲府一高卒業
- 昭和59年 東北大学工学部土木工学科卒業
- 平成4年 同大学工学部防災科学技術研究所 助教授
- 平成12年 同大学工学部防災科学技術研究所 教授
- 平成26年 東北大学災害科学国際研究所所長・教授(現職)
- 主な受賞
 - 平成26年 防災文化賞
 - 平成27年 文部科学大臣表彰(科学技術振興部門)
 - 平成28年 防災功労賞(内閣府)
 - 令和2年 漢口環境国際賞
 - 令和3年 文部科学大臣表彰(科学技術振興部門)



目新鐘によせて

昭和59年卒
望月 高行

(医)望月耳鼻咽喉科
理事長 医学博士(神奈川県)



第63回甲府中学・甲府一高東京同窓会は59年卒（1984）が当番幹事に当たり、記念誌「日新鐘」の特別企画として、「コロナ禍で頑張ってくれていた同期にスポットを当てよう」という話になりました。大変おこがましいのですが、59卒の一医療従事者ということでコロナ禍でのクリニックの状況を寄稿させていただきます。

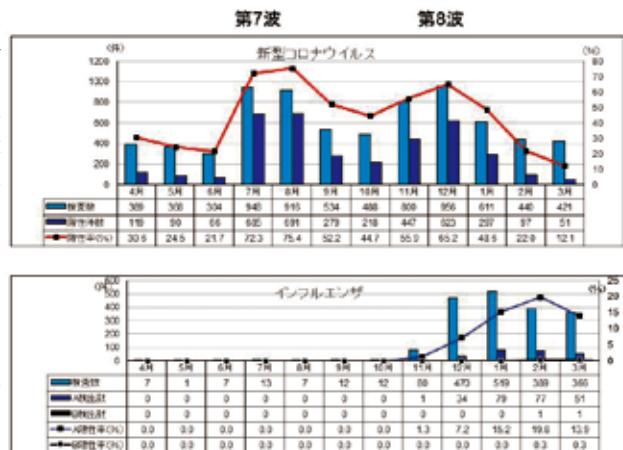
発熱感染症外来奮闘記（2020-2023）

2022年を象徴する漢字は「戦」でした。私の2022年を象徴する漢字は「折」でした。コロナの波にのまれて遂に心が折れつつあります。最近ではコロナ死者数が過去最高を更新した第8波が収束し、1日数名の陽性者程度に減少し、やっと落ち着いていた日々を過ごせています。波が押し寄せるたびに同じ事を繰り返し、時間と闘いながら辛い毎日を過ごしていました。昨年は感染ピーク時1日40人ものコロナ陽性患者が出ることもあり、オーバーワークでスタッフや同業者である妻ともバトルを繰り返し、数人スタッフが去っていきました。

この間、クリニックの診療は大きく様変わりしました。当院は予約制なのですが、予約人数や手術も制限し、院内滞在時間短縮のためネブライザー治療も中止しました。県や

市、医師会からのコロナ検査体制の協力要請を受け、年末年始、ゴールデンウィーク、夏休みも返上して、検査体制を整えました。

望月耳鼻咽喉科 新型コロナウイルス感染症 インフルエンザ 2022年度



神奈川県発熱感染症専用ダイヤルからの患者紹介の受け入れ、診療の合間でのコロナワクチン接種、休日は集団接種の協力、コロナサポート大和からの診療依頼。スタッフ全員にフェイスシールドを着用させ患者の動線も分けて診察しています。ひっきりなしに鳴り止まぬ電話（4回線）、保健所への全数把握の届け出などが狂いそうでした。心に余裕が無くなるというのはこういう事だと実感しました。

新型コロナウイルス感染症は当初から耳鼻咽喉科の症状と直結しており、特にオミクロン株になってからはさらに区別がつきにくい症状になっています。年末年始、ゴールデンウィーク、お盆は早朝7時から検査を開始しました。尚、今年の年末年始は心が折れつつあったためお休みしました。

平日は朝8時から30分おきに4人ペースで屋外の検査ブースで鼻腔から検体を採取し、院内にて発症日と症状、濃厚接触の有無などを考慮し、抗原検査か核酸増幅検査かを決定します。

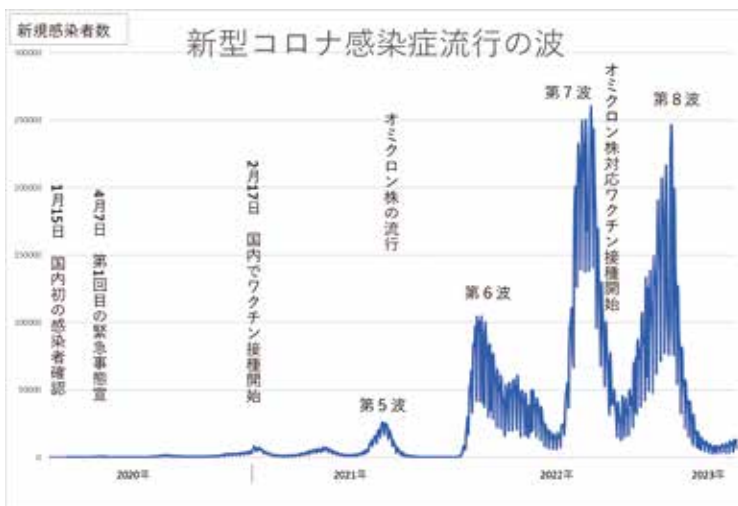
いずれも15分ほどで結果が判明します。等温核酸増幅検査機器（Abbott社製 ID NOW®）を2台導入しました。検査法は3分間試薬を温め、その後、検体を10秒かき混ぜて試薬カートリッジと合体し、後は蓋を閉めて待つだけで実臨床に非常に適しています。が、その一連の作業に1秒でも遅れ、蓋を閉め忘れたりすると検査自体が無効になり高価な試薬が水の泡となります。検査時間との戦いで、一般外来診療を行いなからタイマーをかけて検査し、検体を取りに行くので、まさに現場はカオス状態です。

発熱感染症外来に予約で来られる患者さんは圧倒的に「一見さん」の割合が高く、普段

からコミュニケーションがとれている患者さん達とは大きく違います。予約をとっても無断キャンセルも多数あり、こちらが話しているのに途中で電話を切られたり、予約したにもかかわらず一切電話に出ない、他院で予約が取れたからいい、なにか気に入らないことがあると一方的にSNSに口コミ・最低評価をつける人、車が止められないなら別のパークキングに停めてきてくださいと事前に電話で伝えているにもかかわらず止められないとクレーム電話をかけてくる人など。中には陽性が判明すると自宅療養期間を短くするため発症日を変えようと食い下がる患者さんもいます。まだまだ氷山の一角ですが、きりがありません。

自宅で抗原検査をして陰性、または唾液PCR検査で陰性であった患者さんは当院で再検査すると陽性になる例も割と見受けられます。また、のどの違和感や嗄声のみで陽性が出る患者さんもあり、今後、感染症分類が2類から5類になってもコロナの感染力は変わらず日常診療で咽喉頭を診察する耳鼻咽喉科医は慎重に診療にあたらなければいけないと実感しています。また今年インフルエンザも流行し、また花粉も多く飛散し花粉症にまぎれた新型コロナウイルス感染症患者もいま

す。今後も第9波が起こるものだと考えて、備える必要があります。いよいよ政府は自分の身体は自分で守れという方向に舵取りを転換しました。自粛から自衛「Self Corona」と新たな時代になります。同窓生の皆様どうかご自愛ください。さて私の今年2023年を象徴する漢字が何になるか楽しみです。このような伝統ある甲府中学・甲府一高東京同窓会記念誌「日新鐘」に一医療従事者の愚痴のような文章を寄稿してしまったことをどうかお許しください。





昭和59年卒
鈴木至郎
薬剤師

第63回甲府中学・甲府一高東京同窓会にあり、新型コロナウイルス感染症対応の最前線で活動してきた医療関係者の一人として寄稿を依頼されました。一人の薬剤師として。見える範囲は限られています。私の周りの医師、薬剤師等の話も織り交ぜながら書かせていただきます。と思っています。

私は、昭和59年に甲府一高を卒業し、その後薬学部に進学後、現在は山梨県内の調剤薬局で薬剤師をしています。医師や看護師の方と違って、直接患者を診察したり看護したりすることはありませんが、やはり今回の感染症流行によってさまざまなことに影響がありました。

新型コロナウイルス感染症について、薬局ならではの視点で見ると、一つのキーワードとして「不足」が挙げられます。

2020年（令和2年）1月に、新型コロナウイルス感染症による肺炎患者の発生が厚生労働省より公表されました。また、WHOによる新型コロナウイルス感染症の認定や、横浜に寄港したクルーズ船の中で大量の感染者が発生したことなどもあり、新型コロナウイルス感染症についての関心が一気に高まります。

ここで、マスクの不足が出始めました。皆さんもまだ記憶に新しいでしょうが、スーパーやドラッグストアで売り切れてしまい、一向に入荷しない事態となりました。私の勤務する調剤薬局でも細々と販売していましたが、やはりすぐに売り切れ再入荷のめどがなかなか立たない状況でした。やむを得ず布製

やウレタン製のマスクで過ごした人も多いのではないのでしょうか。

次は消毒用のアルコール不足。買占め等の影響もあったのでしようが、やはり、需要に供給が追い付くまで時間がかかり、問屋からの納入が非常に困難となってしまいました。アルコールに関しては、一部酒造メーカーが、増産をしたり、医薬品ではなく酒類として高アルコール度数の焼酎を販売したことが話題となりました。

比較的近頃のことですが、解熱剤の「カロナール」が不足しているという報道を覚えている方も多いでしょう。市販薬でも同様の成分のものが売り切れになっていました。現場では、報道以前のコロナ感染症流行の初期から不足してきており、子どもや高齢の方にも比較的安全に使用できるため、広く処方されてきましたが、突然貴重品となってしまいました。そのおおりで、ロキソニンなどの他の鎮痛剤も不足するようになってしまいました。

新型コロナウイルスが変異し、オミクロン株が登場すると、今までに比べてのどや咳の症状が特徴的になってきたため今度は鎮咳剤（咳止め）、去痰剤（痰を出しやすくする薬）が不足してきました。この状況は現在も続いています。

医薬品業界では現在薬不足に悩まされています。これは新型コロナウイルス感染症のせいだけではなく、皮膚病の薬に他の無関係な医薬品の成分が混入した事件以降、当局の立ち入り検

査が厳しくなっており、いろいろな薬が不足する事態となっています。

薬剤師の仕事として、患者さんに対し処方された薬の服薬について指導を行い、他に服薬している薬との関係などで処方を変える必要があると考える場合は、その旨を医師に相談するなど、患者さんへの対応は非常に重要な職務です。しかし、薬不足の現状から、薬をいかにして確保するかという仕事に力を入れざるを得ず、患者さんへの対応に割くべき時間を圧迫している現状があります。

また、マイナンバーカードが健康保険証として利用できるようになり、さらに電子処方箋も導入されました。しかし、医院・薬局に導入する機器が間に合わず、猶予期間が設けられることとなりました。

世間では、マスク着用が個人の判断に任せられることになり、また多人数が集まるイベントなども開催されています。国民の生活のためには望ましいことである反面、新型コロナ感染症が完全に根絶されたわけではありません。私の周辺でも「まだ過去のものになったわけではない」という声が聞こえます。過剰に警戒する必要はありませんが、しばらくの間は一定の注意を払いながら生活していく必要があると思います。

一方、コロナ禍での生活ですが、東京の方から聞く話とは多少違う点があります。山梨では自家用車で通勤している人が多く、私も家族も自家用車での移動のため、公共交通機関がどうなっていたのかは正確に把握できて

いませんが、都会よりも移動による感染リスクは低かったと思います。飲み会などは、やはり自粛されていました。スーパードの買い物などは行かないわけにはいかず、閑散としているという感じではありませんでした。

また、自家用車社会で良かった点としては、患者を車で医院まで連れて行き、車中待機、医師、看護師が完全防備で出てきて、車で診察を行うような体制を取れたことでした。診察後には、薬剤師が完全防備で車まで行って投薬を行っていました。あるいは、ドライブスルーの薬局もあるので、感染者への接触を最小限に抑えることができました。これは、地方ならではの思いです。

以上、とりとめの話となってしまうましたがコロナ禍のなか、自分なりに頑張ってきた医療関係者として思うところを書かせていただきました。

最後に私事で恐縮ですが、家族のことを紹介したいと思います。

私の家系は、祖父も父も甲府一高出身で薬剤師になりました。私を含めると3代続けて甲府一高卒の薬剤師ということになります。さらに息子も薬剤師ではありませんが、甲府一高を卒業し、祖父・父・私・息子の4代連続となりました。ちなみに妻も甲府一高出身です。息子は野球部に所属し創部120周年のときに3年ぶりに公式戦で勝った試合で2年生ながら公式戦初打席で勝ち越しの満塁走者一掃の適時三塁打を打つことができました。強行遠足では、一年生のときには終点が



小諸に戻った年だったので、小諸には遠く及びませんでした。その年は全体としても到達率が悪かったと聞いています。翌年は、両親からの圧に押され、二年生、三年生のときには小諸まで到達することができました。このような話を親子で共有できることも、諸先輩方から在校生に至るまでの皆が伝統を受け継いできたおかげです。今後も甲府一高の伝統を受け継がれ、同窓会もますます盛り上がるよう祈念しております。

コロナ禍における

診療について



昭和59年卒
三枝裕和

川口市立医療センター 放射線科 部長 兼 画像診断センター長
東京慈恵会医科大学 放射線医学講座 講師

昭和59年3月、甲府第一高等学校卒業の三枝裕和です。現在東京慈恵会医科大学放射線医学講座に所属し関連病院へ派遣中の放射線診断専門医です。画像診断を担当しています。どうぞよろしくお願い申し上げます。

第63回甲府中学・甲府一高東京同窓会は昭和59年卒が当番幹事です。よろしく願い申し上げます。今回担当者から昭和59年卒の私に「コロナ禍で頑張った人・医療従事者」という題で原稿依頼がありました。私は特に頑張っているわけではないのですが病院勤務医の立場で思いついたことを書いてみようと思います。私などが担当し僭越かと思いますがどうぞよろしく願い申し上げます。『断る勇氣があるならコミュニケーションしていかない＆真のコミュニケーションは逃げることもできない。（後藤ひとり、2022）』。

私が現在勤務している病院の内容を主体に書くとは病院に迷惑がかかるかもしれないので私の大学での同級生が院長をしている病院について調べてきました。病院は北関東に存在する私立病院で約四百床の地域中核病院です。

前置きが長くて申し訳ありません。私は子供の頃から作文が苦手です。国語の安藤先生の丁寧なご指導にもかかわらず国語は全体的に苦手でした。なので不適切な表現、間違った表現があるかもしれません。大変申し訳ありません。ご容赦くださいませ。



今回の新型コロナウイルス感染症のことを我々はcoronavirus disease-2019（以後Covid-19と略記します）と表現することが多

く今回もそのように表記します。『英語は興石先生にご指導いただきました』。

私は画像診断医なので画像を主体に以下の順で書きます。

- (1) Covid-19肺炎のCT画像について
- (2) 病院が実施した対策等
- (3) 東京都から発出された緊急事態宣言等の期間
- (4) まとめ

(1) Covid-19肺炎のCT画像について

新型コロナウイルス感染症は重症化するとCovid-19肺炎に至ることがあります。肺炎はCTで指摘することができるのでCovid-19が流行し始めてからCT件数が増加しました。

Covid-19肺炎に特異的な所見はありません。すりガラス影が末梢主体に斑状に分布している事が多く、インフルエンザウイルスによる肺炎も似た所見を示します。Covid-19が流行している状態でインフルエンザが流行することがなかったため診断は容易とされてきました。ただし、両者が同時に流行すると画像での鑑別は困難となります。

またCovid-19肺炎流行の前半の時期は急性

間質性肺炎の所見を示す症例が多くありましたが後半は嚥下性肺炎様の所見（両側肺背側末梢の浸潤影）を含むようになり診断に苦慮することが増えていきました。流行の早い時期にはPCR検査が十分にできなかったためその代わりにCTが施行されているような状況でした。そのためCT件数は増加し処理することが大変であったと記憶しています。

なんとなくお気づきだと思いますがCovid-19肺炎とCovid-19感染症はイコールではありません。Covid-19感染しても肺炎に至らない患者さんも少なからずいました。

(Covid-19感染者 U Covid-19肺炎患者)。Uの記号は、横書きのように解釈して下さい。また症状のない患者さんともいわれる場合があります。『Uの使い方大丈夫だと思いますが：。数学は深沢先生にご指導いただきました』。

肺炎になっていないCovid-19感染者を画像で評価することは困難です。ただ、感染流行の前半ではCovid-19感染者は肺炎を起こす頻度が高かったのではないかとの報告があり、PCR検査の代わりにCTを施行した事は正しい対応であったとするグループもあります。



またPCR検査陽性でありかつCTにて肺炎（PCR陽性 U CTで肺炎）である場合入院させると判断している病院もありました。また入院時、手術前には必ず胸部CTを施行するようにしている病院もありました。その結果CT件数は増加し私が現在働いている病院ではCT2台体制から3台体制へ増設しました。現在の疾患分布はほぼCovid-19流行前の状態に戻っています。

流行初期のCovid-19に対する診療についてはPCR検査が十分にできないこともあり手探り状態であったと言って良いと思います。その後も、院内でクラスター発生を繰り返しながら恐る恐る診療して行きました。一部の部門でクラスターが発生し一時的に手術ができ

なくなりました。詳細の解説は『禁則事項です。』（朝比奈みくる、2009）』。

医師も診療時患者様と接触しますが看護師さんと患者様との接触に関しては特に濃厚接触になりやすく注意が必要で深刻な問題であったと思います。

以上Covid-19について画像を主体に記述しました。『ぶっくり』。

私は感染症の専門家ではありません。専門家の先生が見ると「？」という記述もあったかもしれませんが。また医療関係者向けの内容でもありません。ご容赦下さいませ。

(2) 病院が実施した感染予防対策等

① 出入り口を制限した。

患者様は正面玄関、職員は救急入り口を利用する。目的は職員の感染予防だと思いません。

② 正面玄関での検温、

手指消毒用アルコールの設置、入館時マスク着用。院外からのウイルス持ち込みを防止する。



③ 患者様が移動する際の周囲の通行制限

患者様からのウイルス感染を防ぐため、PCR陽性患者および発熱で救急車搬送された患者様等が移動する場合にはその周囲の通行制限を実施しました。

④ 検査後の検査台の消毒

検査台を介した院内感染防止のため、Covid-19の否定ができない患者様の検査後、検査台を消毒するようにしました。

⑤ ガウン、サージカルマスク、非滅菌手袋、フェイスシールド着用。

着ける順番…ガウン↓マスク↓フェイスシールド↓非滅菌手袋
外す順番…非滅菌手袋↓フェイスシールド↓ガウン↓マスク

着ける順番の逆に外せばよいのではないことに注意。細かいですが…。

⑥ 各検査室に空気清浄機設置。

⑦ 受付に透明アクリル板設置。

⑧ 宴会禁止。

現在でも部門全体での宴会は自粛されています。

⑨ 職員の発熱時勤務マニュアル。

かなり細かく定められています。

その他にも多数ありますがうまくご説明できません。また長くなつてしまいます。

『言語では概念を説明できないし、理解もできない。』（長門有希…情報統合思念体、2009）』。





(3) 東京都から発出された緊急事態宣言、
蔓延防止重点措置

緊急事態宣言	2020/4/7から5/25
緊急事態宣言	2021/1/8から2/21
蔓延防止重点措置	2021/4/12から4/24
緊急事態宣言	2021/4/25から6/20
蔓延防止重点措置	2021/6/21から7/11
緊急事態宣言	2021/7/12から9/30
蔓延防止重点措置	2022/1/21から3/21

長い間いろいろな制限をうけながら生活して
いました。大変だったと思います。



私は基本的に指示されたとおりに行動して
いました。2020年は自宅と病院との往復
のみでしたが2021年からは温泉旅行(対
策された温泉宿に車で直行直帰)に行き、
2022年からは東京ドームで野球観戦、外
食、ライブ(堀内孝雄、f h a n a、大塚愛
など)、映画(からかい上手の高木さん、か
がみの孤城、ゆるキャン△など)、サッカー
天皇杯決勝観戦(ヴァンフォーレ甲府優勝)
にも行ってきました。

また、府中競馬場にソダシの応援行つた
り、甲府で飲み会(バカボン、はかせ、すー
ちゃん：お世話になっております)等しつか
り感染対策した上でかつ東京都や医局、病院
のルールを守りながら徐々に行動範囲を広げ
てきました。これから来るかもしれない第9
波に注意しながら生活していこうと思いま
す。

(4) まとめ

まとまりのない内容になってしまい申し訳
ありません。思い出しながら気づいた点を文
章にしました。(2) (3)については長く
なってしまいそうだったので簡潔にしまし
た。

最後に今私が社会人となって働いていられ
るのは甲府一高での先生方のご指導のおかげ
であると感謝しております。ありがとうございます
でした。特に本文中に記載されている担任
の先生には感謝しております。

そして甲府第一高等学校と甲府中学・甲府一
高同窓会および東京同窓会のみますますのご発
展と皆様方のご多幸ご活躍を祈念申し上げま
す。

編集部からのお願い

三枝先生は感染症の専門医ではないため、
今回の原稿の内容に関しての質問にお答え
することはできません。具体的な相談は、
主治医の先生などをお願いします。

コロナ禍とメンタルヘルス



昭和59年卒
深沢 孝之
 心理臨床オフィス・ルーエ代表
 山梨県立大学非常勤講師

新型コロナウイルスのパンデミックによって、この3年間の私たちの暮らしは甚大な影響を受けました。その内容や度合いは、人によってかなりの違いがあると思いますが、おそらく「大変だった」「ひどい日があった」という人が多いのではないのでしょうか。実際、たくさんの方がコロナ禍で大きなストレスを受け、精神状態が悪化したのは確かです。校友の皆様はいかがだったでしょうか。

私は公認心理師、臨床心理士等の資格を持ち、カウンセラーとして活動している者です。1984年（昭和59年）に本校を卒業

後、大学で心理学を専攻し、山梨県庁に採用され心理職として勤務しました。児童相談所をはじめ、山梨県立中央病院や山梨県立北病院などで勤務した後、2012年に甲府にカウんセリングの専門機関を立ち上げました。そこでうつ病や発達障害をはじめ、対人関係などで悩む方々への心理的支援をさせていただいています。その傍ら、山梨県立大学で心理学を教えたり、メンタルヘルスについての出版もしています。今回、同窓会実行委員会より、コロナ禍のメンタルヘルスについて書くように依頼されたので、私の経験や視点から考えていることをお伝えしたいと思います。

コロナ禍のメンタルヘルスの問題は、新型コロナウイルスそのものではなく、それに対する対策にありました。政府からコロナ対策として打ち出されてきたことごとくが、人々の心身の健康に反するものばかりだったからです。特に失業や廃業などで経済的に追い詰められた人や発達途上の子ども、非正規雇用の人や障害者など社会的に不利な立場にいた人には、コロナ対策はつらいものでした。

例えばステイホームやソーシャルディスタンスがあります。「家に閉じこもっている」「不要不急な外出はするな」という政府・マスコミのアナウンスに、元々お上に従順なほ

とんどの日本人は素直に従いました。家にもつていけば、運動不足になりがちです。運動不足はバカにできません。糖尿病など慢性疾患を抱えていた人や障害者の中には、余計に状態が悪化した人がいました。高齢者には、心身の機能低下をきたした人が多くなったと老人精神医学の専門家は言います。

人は孤独になると、生きる意欲が低下しうつ状態になりやすくなります。やることが限られれば、飲酒量が増えたり、ネットやゲームばかりして、「依存症」と医師から言われるほどになってしまふこともあります。

子どもたちへの影響も心配です。学園祭や修学旅行、そして強行遠足など私たちが経験した学校生活が厳しく制限されてしまい、学校の重要な教育機能が著しく低下しました。過剰な消毒もマスク着用も、必ずしもよいものではありません。元々神経質でこだわりやすい人は「コロナ怖い」の思いが高じて、消毒がやめられなくなったり、不安やうつなどの症状が悪化したケースに私は多く出会いました。

何より、3年間もマスクを着け続けるという歴史上初めての経験を子どもたちは強いられました。このことの影響の検証はこれからですが、発達心理学的には良いことは一つもありません。子どもは幼児期に親や保育者の



表情を観察し、真似ることで言葉を覚え、感情を理解していくからです。他者の考えや気持ちを理解することを「共感」と言いますが、それを養うには、人の表情を見ることが絶対条件ですが、マスクはそれを妨げます。そのように考え私は、一昨年出した『アドラー臨床発達心理学入門』（アルテ）の中で、マスクが子どもの発達に及ぼす悪影響を書きました。また昨年2022年には著名な発達科学者、脳科学者の明和政子京都大学教授が『マスク社会が危ない！子どもの発達に「毎日マスク」はどう影響するか』（宝島新書）で、より科学的な見地からマスクの悪影響について注意喚起をしています。実際イギリスの研究で「子どもたちの言葉の獲得の遅れ、表情の乏しさ、不安傾向の高さ」が報告されているそうです。

これらの結果、どのようなことがあったのか、山梨日日新聞の過去1、2年の見出しに踊った言葉を拾ってみると、「不登校児童が過去最多」「思春期やせ症が高止まり」「小学生2割うつ症状」「大学生16%に中等度以上のうつ症状」「子どもの自殺最多」「女性の自殺増」など、たくさんあります。特に自殺の問題は深刻だと思えます。

これだけの犠牲を払ってでも今回のコロナ対策は必要だったのかというと、はっきり言って疑問は残ります。実は当初から、免疫学者やウイルス学者などからの批判的な意見はかなりありました。精神科医の和田秀樹氏は、国の感染対策を主導したのが感染症学者に偏っていたこと、しかも彼らは臨床の現場を知らない研究者であり、感染者数を減らすことにしか関心がなかったこと(三密回避という発想がその典型)、政治家は責任を取りたくないばかりに感染症学者たちに政策決定を丸投げしてしまったことが問題だったと言っています(『これから怖いコロナの副作用』(ビジネス社)等)。日本の感染対策は、著しくバランスを欠いていたということなのです。

社会はようやく元に戻りつつありますが、コロナ禍のような状況はこれからも起こります。その時に心を健康に保ち、前向きに生きていくにはどうすれば良いかというと、基

本的な感染対策をしながらも、あまりそれにとらわれ過ぎないこと、不安に駆られずに、少し立ち止まって時には批判的に考えることが大切です。そしてコロナにかからなければラッキー、かかったらウイルスで自分の体を鍛えることができ、「免疫の軍事訓練」になったとポジティブに捉えてみましょう。ポジティブな感情は免疫力を高めます。ウイルスや細菌を完全になくすことは不可能、そんなことに血道を上げるより、自身の免疫力を上げることに努めることです。それには当たり前前のことです。適度な運動とバランスの良い栄養摂取、そしてものごとの良い面を見つけ、人生を楽しむという態度で生きることが大切です。

賢明な校友の皆様には、まさに強行遠足のよう粘り強い姿勢でこの特異な時代を乗り越え、健康な生活を維持していただきたいと願っています。



新型コロナウイルス感染症と 大学



昭和59年卒
長坂康史
広島工業大学学長

はじめに

新型コロナウイルス感染症、この未知のウイルスは2020年初頭から世界中を混乱の渦に巻き込み、経済活動だけでなく、私たちの目の前の生活にも大きな打撃を与えてきました。しかし、その対応にも変化が生まれ、形は異なるかもしれませんが、新型コロナウイルス禍前のような活気のある社会に戻りつつあります。これからの新しい社会をどのように創り上げていくか、一人ひとりが考え、行動していく必要があるのではないかと考えさせられます。

私は、1984（昭和59）年3月に甲府第一高等学校を卒業し、筑波大学に進学しました。大学では物理学を専攻し、大学院修了後は素粒子物理学の中でもヒッグス粒子探索の研究を続けるために高エネルギー物理学研究所で働き始めました。ただ、非常勤研究員という立場でしたので、その後も専任の職を求め数々の公募に応募し、1997年に長崎県長崎市にある長崎総合科学大学で大学教員として働くことになりました。その後、現在所属している広島県広島市にある広島工業大学にお世話になることになりました。広島に移ったのは2001年4月のことでしたので、もう22年間も広島県で暮らしていることにな

り、ここ広島が人生で一番長く住んでいる場所になっていくことに自分でも驚いています。

広島工業大学と学長就任

広島工業大学は、1961年4月に短期大学、そしてその2年後の1963年4月に4年制大学として開学した私立大学です。高い倫理観を持った社会に奉仕する理工系人材の育成を目指し、「未来の、その先をつくる。」をパーパスに教育、研究、地域貢献などに取り組んでいます。開学当初は工学部に電子工学科と電気工学科の2学科のみを置く大学でしたが、その後、社会で必要とされる技術者を養成するため、時代の変化に合わせて新しい分野の学部学科を設置し、現在では、工学部、情報学部、環境学部、生命学部の4学部、全12学科で構成する大学となっています。大学キャンパスには学部生と大学院生を合わせると約4,500名の学生が日々活動しています。また、卒業生は5万名を超え、中国四国地方を中心に日本全国で活躍しています。

このような大学で教育、研究に当たっていただけですが、少し経つと教員という役割に加え、大学運営にも携わるようになりました。そのこともあってか、2019年から学

長の役割を仰せつかりました。多くの大先輩がいる中、引き受けて良いものか悩みましたが、決心して学長としての一步を踏み出すことにしました。大学運営に関わってきた言っても、それまでは教育研究が主でしたので、大学全体を学長という立場で見るとわからないことばかりで大変でしたが、なんとか走り続けました。今年、学長として新型コロナ禍への対応に明け暮れた1期目が終わり、2期目がちょうど始まったところです。

新型コロナウイルス感染症への対応

学長としての1年目が終わろうとしている2020年はじめ、新型コロナウイルス感染症が世界中に急拡大し、産業界のみならず教育界も大きな打撃を受けました。

原因も対策もはっきりしない中、2020年3月に開催予定だった卒業式から、その対応に追われることになりました。これまでどおり開催して問題ないか、それとも、中止するか、判断材料が少ない中での判断は簡単なものではありませんでした。結局、本学では一堂に会することはせず、学生には普段講義を行なっている教室に学科ごとに集まってもらい、学長の式辞はビデオ収録したものを各教室で視聴してもらおう形で実施することになりました。学生また教職員など関係者の安全、

安心を第一に考えた結果でした。急な変更にも関わらず、関係する全ての人たちの協力でなんとか乗り切ったという感じでした。

その段階では、まだ、日本でもこれほどの影響が出るとは想定していませんでしたので、4月にはこの未知のウイルスもおさまり、新年度を普通に始められるものと皆が思っていました。しかし、予想に反し、新年度が始まる頃には状況がさらにひどくなり、大学への入構制限が要請され、入学式どころか授業を始めることもできませんでした。

オンライン授業の準備と実施

大学では登校せずに授業を進めるために、オンライン授業を行う準備を急いで行いました。理工系大学ということもあり、2016年から全員にノートPCを持つってもらうことにしていましたので、学生の手元のPC環境は問題ありませんでした。ただ、インターネット環境については、自宅学生は問題なかったのですが、下宿やアパートなど一人暮らしをしている学生は苦労していました。大学としては、授業を受けられる環境を全学生に提供する必要がありますので、環境整備の支援を行ったり、相談窓口を拡充したりして環境づくりを進めました。

一方、授業開始までにはさまざまな準備が

必要でした。オンライン授業を行う仕組みについては、これまで大学で運用していた授業支援システムやポートフォリオシステムなどを活用して行うことができたので、比較的早く準備が整いました。ただ、全教員にその仕組みを使ってもらわなければならず、その方法を教員間で共有し、相互に支援し合うことで、5月連休後からのオンライン授業開始に間に合わせました。

オンライン授業を始めるにあたっては、オンデマンド型とリアルタイム型のどちらの授業形式にするかの議論がありました。前者は授業の内容を録画してその動画を閲覧してもらい授業とするもの、後者はリアルタイムでライブ配信を行うものです。学生のインターネット環境も考慮しつつ、広島工業大学ではこのような状況であっても、できるだけ普段の授業に近い授業を行いその質を担保する必要があるとの判断から、リアルタイム型のオンライン授業を実施することにしました。開始当初は、教員と学生の双方に少々混乱もありましたが、全員が慣れると、想像していた以上にスムーズに授業運営ができました。初めての試みでしたが、オンライン授業の方が授業に入りやすいと感じる学生がいる、復習のために録画されたライブ配信を何度も閲覧

し理解を深める学生がいるなど、メリットがあることもわかってきました。

ただし、本学は理工系の大学ですので、大学にある装置を利用した実験や実習は技術者として力を付けるために必須のもので、この対応には苦慮しました。学生が体験することと得られるものを、例えば教員が肩代わりして動画で見せることで本来の効果が得られるのか、悩みました。やはり、学生の体験は必要との判断から、夏頃になれば大学で授業ができるのではないかと期待し、実験や実習を行う期間を前期末に設けることにしました。広島では期待どおり8月に少しだけではありませんでしたが学生が登校できる状況になりましたので、感染拡大防止策をしっかりとすると同時に、学生が大学に一度に集まってしまわないように学科ごとに日程を調整するなどして授業を実施し、なんとか前期を無事終えることができました。

大学の現在

2021年度以降は、学生ができるだけ新型コロナウイルス禍前のように、大学で仲間と一緒に授業を受けたり、サークル活動などに取り組んだりできるように、いつでもオンライン授業の状態に戻るよう準備をしながら、大学の教室で受講する対面授業を基本に進めてい

ます。対面授業が再開した頃、学生はこれまでどおりの授業に馴染むだろうか、コミュニケーションはスムーズにできるだろうかと心配しましたが、その心配には及びませんでした。皆、待っていましたとばかりに大学に出てきて、友達や先生と会い嬉しそうな顔をしていたのを忘れられません。人と人が直接会うこと、そして直接コミュニケーションすることは人間には必要なことなのだと感じた瞬間でした。

今年度は4月3日が入学式でした。今年はそれまで全学生が一堂に会するのを避け2部制にしていた式典も今年度から元の形に戻しました。学生の嬉しそうな顔や友達どうしで楽しそうに話をする賑やかな声、クラブやサークルなどの大学ならではの活動など、大学にもやっと活気が戻って来たと感じることができました。

おわりに

大学をはじめとする教育業界も他の業界同様、少子化への対応が求められています。広島工業大学では、「倫理観を持った技術系人材を育成するとともに、同窓生や企業等との連携を強化し、地域社会における創造の拠点となる大学を目指す」ことを中期ビジョンとして掲げています。大学は教育研究機関であ

るとともに、これからはそれぞれの機能を充実させるためにも地域社会とこれまで以上に連携しながら、新しい社会の創造に取り組み必要があると考えています。新型コロナウイルス感染症への不安はまだ完全に無くなったわけではありませんが、この経験をさまざまな形で活かし、これからも未来を創る人を全力で育てていきたいと思っています。



略歴等

1966年2月生まれ。
1984年甲府第一高等学校卒業。
1984年筑波大学第一学群自然学類入学。1994年筑波大学大学院博士課程修了。博士(理学)取得。
その後、文部省高エネルギー物理学研究所研究員、長崎総合科学大学助手、同助教授を経て、2001年に広島工業大学助教授。
2009年10月に情報学部教授。
2013年から2017年に情報学部長、2018年に副学長を経て、2019年4月から広島工業大学学長、現在に至る。
専門は物理学、情報学。

コロナ禍で大変だったこと

昭和59年卒
ういず杉並和泉保育園 園長
青柳 広美



2023年5月8日：長かった第1ステージが終了し、新たな第2ステージが始まります：私がこの文章を書いているまさにこの時期、新型コロナウイルス感染症による経験したことのない3年間で、ようやく終わりを上げることになりました。

私は現在、東京都の認可保育園で園長職についておりますが、このコロナ禍で大変だったこと、頑張ったことを教えてほしいとの依頼を受けましたので、拙い文章力ではございますが、この3年間で振り返ってみようと思っております。

2019年12月頃より、新型コロナウイルスのニュースを聞くようになり、1月に日本でも感染者が出始めました。当時は横浜市の小規模認可保育園での園長職でしたので、横浜港の客船の情報にひどく敏感になっていました。これが私のコロナウイルス対応の始まりだったような気がします。

2020年度は、未知の感染症の蔓延を抑えるため、4月に新入園児が登園できないという前代未聞の年度始めとなりました。緊急事態宣言が発令されましたが、自治体により保育園の開園基準にばらつきが生じ、同じ会社内でも休園や登園自粛を保護者に求める自治体と、普段通り登園してよい自治体とがあり、職員間で勤務形態に差が生じました。東京都の保育園は休園しているのに、東京都から通勤してくる職員は出勤してよいのか、という疑問も出てきました。

また、当初困ったことは、保育園では日常的に使用している物品の品切れでした。給食の職員は必ず不織布マスクをしていたのですが、マスクの品切れが続く、薬局を梯子したり、職員や友人が布マスクを手作りしたり、ハンカチとゴムで作る簡易マスクを作ったりしました。また、子どもたちの給食配膳や給食介助、あるいは排便、排尿、嘔吐等の際に

使用するビニール手袋も品薄になり、薬局で一人1箱までという限度もでき、毎日薬局に行っていました。消毒液もコロナに対し効力があるものが、通販で売り切れが続いて、朝の時間ならあるなどの噂を信じパソコンの画面とにらめっこしたり、あらゆる通販のサイトで商品探しをしていた時期もありました。子どもたちの保育園生活に丁寧に向き合わなければいけない時間を、感染予防の物品探しにしか使っていないような虚しい時期でもありました。

2021年の正月明け何回目かの感染爆発の波がきていて、いよいよ職員が感染してしまいました。その当時はまだ条件が厳しく、同じ園内にいた園児と職員は全員が濃厚接触者となりました。当時は濃厚接触者は全員PCR検査を受けることになっており、集団検査を休園に行いました。私は自分自身も濃厚接触者でしたが、園児の健康観察のため、保護者一人ひとりに毎日電話し様子を伺ったり、検査のスケジュールを作成し伝えたり、結果を連絡したり、休園期間が明けた後のマニュアルを作ったり、行政や本社と連絡をとったりなど、一人園に出勤し業務に忙殺されていたことを思い出します。自分の家庭の食事も作れず、家族にも迷惑をかけていた頃です。

2021年4月からは、東京都杉並区の認可保育園に異動となり、東京都でのコロナ対策が始まりました。自治体により保育運営そのものの考え方も大きく変わります。コロナ対策も然りでした。

コロナ対策についての物品購入の補助金も出るようになりましたが、各自治体で購入可能な物品の条件が異なったため、園ごとに差異が出ました。こちらで買ってよいものが、あちらでは購入できないなどです。

また、1年に1度しか申請ができないので、年間通して余計な経理事務が増え事務業務過多になり、一体私は保育園の園長なのか、事務職員なのかわからなくなりました。

保育園の園児や保護者が楽しみにしている行事にも大きな変化が求められました。2020年度は、ほとんどの行事が中止となり、人数制限をして開催しようとしても、感染の波がきて中止せざるをえなかったり。2021年度は、なんとか開催をしました。2022年度は、なんとか開催をしました。15分以内で終わるようにスケジュールを組み、演目も制限し、保護者の観覧席も観覧人数を制限したうえで、均等に間隔を開け座席指定したりしました。運動会は1日に6回ミニ運動会を開催したような感じです。また、Web中継を取り入れましたが、配信時にト

ラブルが起こった時に対処の仕方がわからず四苦八苦しました。季節の行事やお誕生日会なども、コロナ前は集会として行っていました。係の職員が同じ内容で6クラス分回っていました。夏のプール遊びも、人数制限があったため、クラスの中でも時間をずらさなければならなくなり、担任以外にプール監視役が必要ですので私は夏の午前中はひたすらプール監視をし、顔のシミが増えたことは否認しません（苦笑）。

コロナ陽性者が園内に出た時には、自治体に報告し保健所の判断を仰ぎ、対象者に連絡をし、濃厚接触者と判断されたら一軒ずつ連絡をし、園全体にも周知する：という一連の流れが連続した時もあり、保護者のご理解があったものの、本当に疲弊しました。また、その報告連絡の流れもどんどん変化しました。そして、園児が感染した以上に変化したのが、職員が感染した時でした。その職員の代替えもできない中、残った職員にそのしわ寄せがいき「保育の質を考える」どころか、少ない職員で「園児にけがをさせずに過ごすこと」だけが日々の目標になっていた時期もありました。まだまだ沢山のコロナ禍ならではの業務がありました。文字数の関係からこの辺りまでにいたします。こうしてこの3年間を振り返

る機会をいただいたので、思い出せたこともあり、そうでなければ忙しさのあまり忘れて去っていたことも多かったのではないかと思います。

事務的な忙しさの羅列になってしまいましたが、最後にこのコロナ禍が子どもたちの成長や情緒面に与えた影響も大きかったことをお伝えしたいと思います。本来、子どもたちは大人の表情や口元を見たり、至近距離でスキップをとったり話しかけられたりしながら、言葉の獲得や細やかな感情を習得していきます。しかし、この3年間のマスク生活、密を避ける生活、食事中も話しかけられない生活などで、子どもたちの発語や発音に明らかな遅れを感じました。私個人の私見でしかありませんが、コロナによってこの3年間の成長や経験を奪われた子どもたちには、今後の保育でカバーしていかなければならないと感じています。

これからもコロナと共存していきながら、その影響をリカバーしていくための日々の努力や進化を怠らず、同じ志の職員たちとともに、子どもたちが「生き抜く力」を持てる大人になるための基礎を育んでいきたいと思えます。

一高で学んだ「日に新た」の言葉を胸に！



山梨県立甲府第一高等学校 東京同窓会ゴルフ同好会

日新会ゴルフコンペ幹事
昭和47年卒
渡辺 正文

日新会ゴルフの紹介

日新会ゴルフは、甲府第一高等学校の卒業生で首都圏に在住する仲間とゴルフを通じて親睦を図る事を目的としています。第1回大会を1990年に、その後、年2回（原則6月と11月の第1木曜日）開催しており、今年6月1日の開催で67回目を迎えました。

第55回大会までは参加者が40名を超えていましたが、その後参加者が減り続け、第59回大会以降は20名前後で推移しています。

参加人数の減少理由として何点か考えられますが、主な理由は第55回まで参加していた常連の方々が80歳を超え高齢化した事、および退職年齢が伸びたことにより50歳代以下の参加者が殆ど無いことです。

そこで、同窓会の皆様へのお願ひですが、ゴルフの経験がある方々（特に60歳代以下）はお客様や会社の上司とプレーするゴルフと違い、スコアを気にせず肩肘張らずに気楽にできますので是非参加してください。

また、東京同窓会の当番幹事を引き受ける時が参加の切っ掛けになりますので、同期の中でゴルフを嗜む人を集め取り纏め者を決め、同期として日新会ゴルフコンペに参加するよう心掛けてください。

第67回日新会ゴルフコンペは、埼玉県にある高坂CCという6年連続で男子プロトーナメント「フジサンケイクラシック」が開催された距離が長く戦略性の高いチャンピオンコースで行いました。

ちなみに、優勝は昭和34年卒 小河原 正己さん、準優勝は昭和54年卒 石坂 稔さん、第3位は昭和42年卒 佐野 高志さんでした。

また、納会では久しぶりに皆で校歌と希望の光を大声で歌いました。

なお、次回の日新会ゴルフコンペは、11月2日（木）に開催しますので奮ってご参加ください。

幹事メールアドレス
damerino.nabe.1215@gmail.com



2011ゴルフ会って何？



2011ゴルフ会とは甲府一高同窓会（甲府、東京）への広告料を参加者から集めるために結成されたゴルフ好き、お酒好きの楽しい会のことです。

一高同窓会の当番幹事は必然的にやってきますが、幹事として大変なのはやはり広告料の獲得（敢えて獲得という言葉を使ってみました）ですね。先輩方から引き継いだ広告主様のリストや当番学年メンバーの人脈などあるの手この手で広告のお願いに奔走するわけですが、平成25年ついに我々昭和56卒に甲府同窓会の当番幹事が回ってきました。私は幹事のメンバーではありませんが、実行委員長と同級生 依田訓彦君より広告の要請がありました。何とか私の会社の経理に掛け合い数万円でしたが広告料を出しました。

広告担当の同級生からはすごく喜んでもらったことから『20人くらいで一人1000円出し合って同窓会に寄付すればもつと喜んでもらえるぞ、それにはゴルフコンペが一番だ』と考へ、年数回山梨でゴルフをやっている同級生に相談したところ『20人以上集めるには同級生だけでは難しい、一つ下にも声掛けよう、そうすれば来年そいつらが当番幹事

の時に寄付できるからメンバーがたくさん集まるかもしれないぞ』ということ、平成25年3月中旬昇仙峡カントリークラブで2学年によるゴルフコンペを敢行しました。

そのコンペの幹事は私がやったのですが、少しでも多くの寄付を集めようと、寄付金一人1000円に加え罰金制度を設けました。バンカー、OB、池ポチャ、3パットをした際は1000円の罰金を課すというもので上限10000円としたものの、参加者のほとんどが10000円の追加寄付してくれたものです。こうして第1回の広告料寄付ゴルフコンペは盛況に終わり、広告担当の同級生にそこそこの広告料を渡すことができ、大いに喜ばれました。

そのような背景で行ったゴルフコンペです。次の年一つ下の学年が幹事の時の同窓会に寄付をしたら終了ということになるので、やはりそこは、伝統の甲府一〇〇、さらに一つ下の学年、また更に下の学年に受け継がれ、ついに今年令和5年3月『第25回2011ゴルフ会』を境川カントリー倶楽部で高野芳太郎くん（H2卒）幹事の下、24名の参加で楽しく開催した次第です。年を追うごとに参加者が増えるはずですが、なぜか毎年20人から30人参加で落ち着いています。またゴルフコンペの後、決まって反省会という飲み会をやりませんが、何の反省もせず、楽しくわいわい飲んで同級生、後輩から元気をもらって普段の生活に戻っていくのです。

この2011ゴルフ会、過去の成績表管理しておりませんが、毎年同窓会（甲府、東京）

の時に発行される記念誌の広告に参加者全員と優勝、準優勝者の氏名が記載されています。それが言わば成績表の替わりです。これからは、体力と仲間とお小遣いがある限り続けていければと思っています。

最後に2011（に1まるいちと読む）の由来は、昭和56卒と昭和57卒で始めた会であり、たまたま学校創立100、101周年時の卒業生であったことから100+101で201と名付けました。

昭和56年卒 小田切 仁



甲府一高湘南同窓会



今年度の東京同窓会のテーマは、「集おう語ろう つながろう！ 同じ學舎の仲間たち」とです。そこで、東京同窓会以外でも活動している同窓生の集まりを紹介いたします。

湘南同窓会幹事の堀口修先輩(昭和44年卒)に話を伺いました。

◆湘南同窓会はいつごろから活動されているのでしょうか

湘南同窓会は平成九年(1997年)が第一回のようなです。というのは、「平成十六年(2004年)第8回」の資料が私(2007年初参加)の持つ一番古いものなので…

ちなみに今年2023年が24回なのは、それまでの毎年開催が一転、三年連続で中止になったためです。

当初はご存命の方がいらっしゃったため、「甲府中学甲府一高湘南同窓会」が正式名で、平成二十八年(2016年)まで変えませんでした。つまり初代会長はなんと昭和十七年卒業でした。ちなみに今回最年長は昭和三十年卒です。

◆設立初期はどのような活動をされていたのでしょうか

これも古いころのことはよくわかりませんが、私が参加以降では、ウォーキングとか鎌倉散歩みたいなことを数回行いました。

◆近年ではどのような活動をされているのでしょうか

令和元年(2019年)ではブログには全体同窓会の他はウォーキングしか記載がありませんが、三名でサイクリングを行ないました。

コロナ感染症の関係で2020-2022年は全体では何もできませんでした。が、幹事四名で打ち合わせを兼ねて軽い飲み会をやりました。

今回の令和五年全体同窓会への申し込み人数は27名でしたが、それまでは30名後半というところが平均ですね。会場は一時中華料理店で行なったこともありましたが、ほとんどホテル開催でした。

今までの会への印象として、皆さん歌好きでは？という印象があります。良く会で童謡唱歌を合唱していました。それもテープやCDのカラオケに限らず、ピアノが弾ける人がいてその方の伴奏もありました。

◆今後はどのような活動を予定されていますか

湘南と名がついていますが、引越されても引き続きご出席いただいたり、誘われたからと都内や山梨から来る方もいます。

一高OB OGであれば全然OK、という方針は変えないで行こうと思います

課題は若返りですかね？その意味でも他エリアの方も歓迎です。

あと余力あれば、アウトドア的なことも復活させたいものです。

湘南同窓会にご興味がある方は、ぜひご連絡ください。

甲府一高湘南同窓会 Webサイト

<http://ichikoshonan.livedoor.blog/>



甲府一高あおぞら会実行委員
昭和45年卒 小口 弘毅
小児科医

あおぞら共和国を支援する 甲府一高あおぞら会

甲府一高同窓生の皆様全てに、〝あおぞら共和国〟を知っていただく為に、拙文を寄稿致します

山梨の里山、白州に難病あるいは障害のある子ども達が家族と共に過ごすレスパイト施設「あおぞら共和国」が建設され、のべ9000人がすでに利用しています。あおぞら共和国建設の母体である難病の子供支援全国ネットワーク（以下難病ネット）は特定NPO法人であり難病や障害を持つ子どもと家族を繋ぐ全国組織です。

〝あおぞら共和国〟の建設は2011年に始まり、現在ほぼ完成しており、全てが寄付によって賄われています。甲府一高あおぞら会は、〝あおぞら共和国〟を支援するために2014年に同窓生の有志によって結成され、現在400人を超える会員がいます。会費収入（年会費3000円）を中心に寄付金を集め、〝あおぞら共和国〟に寄付してきました。

現在こどもの難病に指定されている病気は700にのぼり、これら難病と戦う子どもたちは全国でおよそ25万人を超えます。少子化にも関わらず、小児医療の進歩により昔なら

救命が困難であった重症児が生存し、医療的ケアが必要な子ども達は増えています。

医学がどんなに進歩しても、この子たちの持つ全ての障害あるいは病気を治すことは難



ゴールである建設中の“あおぞら共和国”でのウォーク参加者の記念写真

甲斐駒ヶ岳の麓に“あおぞら共和国”は建設されています



しいのです。成人と違い、重い病気あるいは障害を持っていても、こども達は日々育っていく生命体です。病院と自宅の往復だけの単調な生活では、心も身体も育っていきませんが、生きていくだけで精一杯のこどもにとっても、余暇をどう過ごすかは大切です。増加の一途を辿る医療的ケア児にとって、あおぞら共和国は生きる喜びを感じる特別な場所になっています。

現在の“あおぞら共和国”



現在の、あおぞら共和国には、宿泊棟、交流棟、こどもの遊び小屋があります。また、遙か後方に冠雪した甲斐駒ヶ岳の山頂が見えます

私たちが行った、様々な募金活動の一つとして、JR日野春駅から白州の、あおぞら共和国までの12kmを歩くチャリティーウォークが毎年、開催されてきました。強行遠足で歩くことの楽しさを知っている甲府一高同窓生が参加し、あおぞら共和国に魅せられ、多くの賛同者が生まれました。

元新生児科医である私は、新生児集中治療センターから一步も外に出ることなく短い生を終えた多くの赤ちゃんたちを思いだします。何とかして赤ちゃんたちを連れ出して、世界の美しさを見せてあげたいと何度、願ったことでしょうか。あおぞら共和国を訪れ、樹と漆喰でできた日本家屋に家族と寝泊まりすることも達は、周囲を取り巻く高峰に目を見張り、新緑の頃は軟らかい萌黄色の森の中で小鳥の囀りに耳を傾け、夜は満天の星に見入ることでしょう。

あおぞら共和国の誕生物語を私が企画、編集し「みんなのふるさとあおぞら共和国物語」のタイトルで書籍化しました。本は限りがあるので、甲府一高あおぞら会HPに掲載（PDF版、ebook版）しましたので、お読みいただき、多くの方に紹介していただければ幸いです。

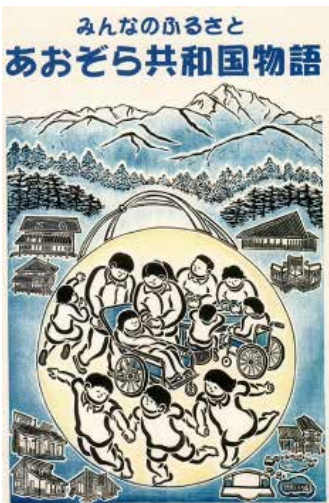


写真1 Angkor Wat 西参道

東京同窓会に 寄せて

昭和59年卒
赤澤 泰

1988(昭和63)年 日本大学卒
2016(平成28)年 早稲田大学大学院 博士(工学)
1988(昭和63)年 株式会社鴻池組入社
東京本店建築設計部、本社技術研究所、海外事業部
現在、株式会社文化財保存計画協会 主任研究員
早稲田大学 創造理工学術院 客員次席研究員(客員講師)
早稲田大学総合研究機構 文化財総合調査研究所 招聘研究員

はじめに

甲府一高を卒業して40年が経っています。それでも高校時代ともに過ごしたサッカー部の仲間とは今も毎年のように顔を合わせています。

今回の寄稿文については、そのサッカー部のキャプテンからのお声かけで書かせていただきました。これまでの私自身の体験談ですが御笑覧ください。

少年時代

10歳の頃仲の良い友達に誘われる形でサッカーを始めました。当時はまだJリーグもなく、各小学校のチームでした。中学校でもサッカーを続け、ここでも小学校時代同様に良いメンバーに囲まれ全国大会に行くことができる幸運に恵まれました。このサッカーよりも早く始めたのは弦楽器バイオリンでした。こちらもサッカーと並行して続けていました。

一高

このような少年時代を経て高校入学です。一高への入学が分かった際には、自身も一高の卒業生である父親が喜んでくれました。一高でも中学までも一緒だった仲の良い友人

とサッカーを始めます。練習を見学に行くところにはこれまで小学校、中学校と対戦してきたメンバーがたくさんいました。ほとんど顔を見たことがある人達です。そのような仲間に出会い、あつという間にチームとなりました。練習に励みました。3年生の総体で残念ながら敗戦、試合後私はすぐに着替えてバイオリンの発表会。演奏中に客席をみると、サッカー部のメンバーが試合後に聴きに来てくれました。ありがたいことです。こうした良いメンバーとの数々の強烈な経験はその後の私自身の人生に大きな影響を与えてくれます。

高校卒業後、大学でも勉強よりも部活のような生活でサッカーを続けました。その大学のチームでは、今度は中学の全国大会に静岡県代表として出場したメンバーでしかも優勝した選手もいたのです。大学では高校までとはまた違ったタイプのサッカーを経験できました。実は、大学でもサッカーとバイオリンをともに続けていました。

カンボジア

そんな音楽とサッカー漬けの学生時代でしたが、なんとか社会に出て建築の道に進みます。総合建設会社の設計部で現代建築の設計

写真2
カンボジア アンコール遺跡 BAYON寺院 (with Dr. Olivier CUNIN)



をしていた時に、会社内である募集の声がかりました。カンボジアのアンコール遺跡の保存修復プロジェクトへの参加について希望者を募るとのこと。建築を齧っていた私にとって、アンコール遺跡は憧れの一つでした。教科書や歴史書でしか見たことのないその美しい建造物と対峙できることが楽しみで、私は思わず手を挙げていました。当時社内には300人以上の設計部員がいましたので、た

くさんの希望者がいるものと思っていたのですが結果手を挙げたのは私一人でした。そのため社内選考は無いも同然で、すぐに外務省での試験、面接と進みそのプロジェクトに参加できることになりました。1996年のことです。まだ内戦の傷跡が残るカンボジアに対して、経済と文化の両面で支援をするという日本政府の方針のもと現地へ赴くことになりました。

実際に目のあたりにしたアンコール遺跡は素晴らしいものでした(写真1・2)。ただ長く続いた紛争の影響は大きく、遺跡の維持や修復もままならない状況に思えました。1996年の参加から約10年、2005年の第2次フェーズ完了まで、ほとんどをカンボジアで過ごし現地の方々と協働で保存修復事業を続けました。このプロジェクトは2023年の現在も継続され、私もメンバーとして参加させていただいています。

アフリカ

一旦帰国して会社に戻ると、今度は会社から西アフリカのブルキナ・ファソ国への赴任を打診されました。2006年から2年半ほどブルキナ・ファソで初等教育施設の建設事業に携わりました(写真3)。この国では日

写真3 ブルキナ・ファソの小学校



本、カンボジアとも異なった文化、生活を体験することができました。カンボジアの滞在中も最初の頃は電気や水道の不便さを感じましたが、ブルキナはそれ以上でした。赴任した2年目は田舎の街に拠点を置いていたもので、電気も水道も決まった時間しか使えません。砂嵐のあと髪を洗っている途中で水が出なくなるというようなことも多々ありました。夜、通電している時間はパソコンも使えないのでカンボジアでの経験を論文に纏めるこ



写真4 ブルキナ・ファソの建物事例

とにしました。一か月ほど書き溜めて、首都に出る機会にネットカフェから日本の先生にメール送信して指導を仰ぐことを繰り返しました。ブルキナ赴任中にカンボジア、アンコール遺跡の論考を日本語で書くという変則ですが、これもよい経験になりました。

ブルキナでは「建築」についても勉強になりました。日干し煉瓦と草葺きの屋根で構成される建造物（写真4）。現地の彼らにとって床や壁の水平、垂直はそれほど重要ではありません。建物が崩れず床が水に浸からないで人や穀物が護られればよいのです。そして、彼らの建物は循環性を持っています。

す。日干し煉瓦に泥を塗った壁は、雨季を越すと崩れてきます。しかし崩れた土を泥に戻して塗り直せば、また一年過ごせます。屋根材はもともと食料として収穫した雑穀類の茎や葉を使います。こちらも一年ほどで傷みが出ます。傷んだ屋根材は燃料として使用します。灰となった肥料として畑に撒きます。そしてまた食料を収穫、新しい屋根という繰り返しです。無駄はありません。持続可能性の具現化がその場に在りました。面白いことはまだまだたくさんありますが、紙面の都合上ここまでになります。

日本

2008年に日本に帰国します。ありがたいことに現在の文化財の保存修復を主たる業務としている事務所からお声がけをいただきました。日本各地、中国、ミャンマー（写真5）等に出向いて、現地の自治体とともに文化財の保存、活用に資する計画の策定や設計を行っています。また、世界遺産登録のお手伝いもさせていただきます。

仕事は継続しながら、時間を作ってカンボジアでの保存修復について論文をまとめることができましたのは2016年でした。厳しく優しい先生方に恵まれて博士（工学）の学位を頂くことができました。

絆

仕事柄、出張が多いのですが、世界のどこにいても一高同級生サッカー部新年会の案内が届きます。1キロバイトにも満たない通信状況のアフリカでも新年会のメールをいただけたいことは今でもよく覚えています。会いに行けないけれど、誘う方も無理だとはわかっていても、連絡を絶やさないでいてくれたことは感謝の念に堪えません。

ここ数年は新型コロナウイルスの影響で会うことができない年もありましたが、これからはまた会えると思っています。一高時代に会えた仲間と今も毎年会えることを楽しみに日々努力を続けています。

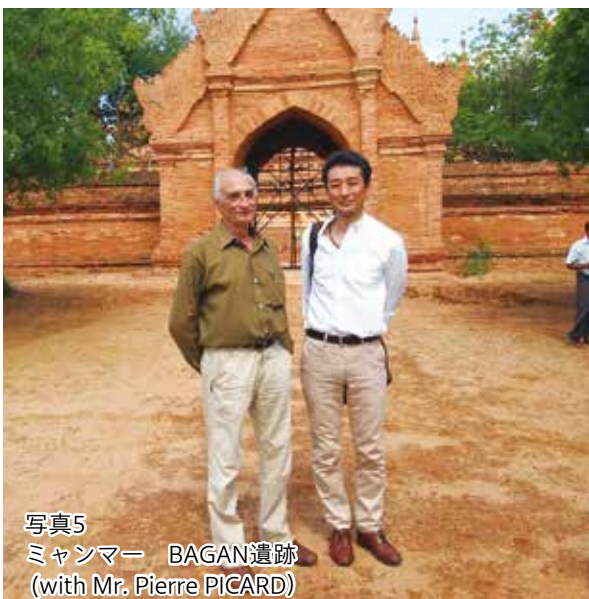


写真5
ミャンマー BAKAN遺跡
(with Mr. Pierre PICARD)

同窓生が集まるお店

甲府に帰ったとき何か食べに行きたい。少し飲みに行きたいと思ったことはありませんか。でも、甲府に住んでいたのは18歳までだからお酒を出す店はほとんど知らない。そんな時、甲府一高のOBがやっているお店に行ってみませんか。昭和59年卒の同窓生のお店を紹介します。

らうめんMENKUI

甲府一高を昭和59年に卒業した齊藤 健です。在学中は、柔道部に在籍しており、団体では、柔道強豪校を倒して関東大会にも出場しました。結果はボロ負けでしたが…強行遠足は、2年生の時は完走しましたが、他2年は自分に負けてしまいました…らうめん屋を始めたキッカケは、単純にらうめん好きだった事と、人と接するのが好きだったからです。

「仕入れ」「仕込み」「営業」と、1日のほとんどが仕事漬けになってきつい仕事ですが、たくさんのお客さんや、時には同級生や先輩、世代を越えた後輩たち（一緒に校歌、応援歌を歌うことも!）の笑顔や笑い声が聞けて毎日頑張っています！

現在は、甲府市高畑町で、ラーメン居酒屋としております「らうめんMENKUI」です。2000年に、昭和町で屋台のラーメン屋として開業し、2004年より高畑町に店舗をかまえ、当時使用していた屋台を店内にレイアウトして営業しております。

こちらではすでに19年商いをしていて、同級生、屋台時代からの常連さん、地域のお年寄りからお子さんまでのファミリーなど、たくさんの方に支えられて営業しています。

当店は、ラーメンだけのお食事の方はもちろん、たくさん種類のお酒と豊富なおつまみのメニューもあり、居酒屋として使われる方もたくさんいらっしゃるので、毎日賑やかに営業中です！

店内もどことなくノスタルジックな雰囲気になっていきますので、時間を忘れて楽しめるお店です。

お客様が、自由に使っていたただける空間です（^ハ）近くにいざした際は、ぜひお立ち寄りください。



らうめんMENKUI

甲府市高畑2-10-3

090-7637-0964

OPEN 17:00~24:00 About

（日曜定休、営業の場合も有り）



日新鐘2023
広告目次

(敬称略)

本年も多数の広告掲載
誠にありがとうございました。

あ	I J P O W E R S (株)	59
	(有)アウテリアあかざわ	57
	青柳 広美	61
	一級建築士事務所 アクシス・アーキテクト	54
	医療法人 浅利クリニック	60
	(株)アセツアルアンドデー	59
	あとべ心のクリニック	48
	荒川外科肛門科医院	51
	(有)アンリミット・ジャパン	54
い	合同会社イズマタ	61
	イソベトヨー住器(株)	60
え	(株)エミューライフサポート	60
お	大泉はなわクリニック	55
	(株)オー・エム・シー	56
	おぐちこどもクリニック	54
	小澤豊工業所	60
	(有)小野商事	61
か	(株)甲斐國	45
	笠井クリニック	54
	カーサ・フェルテ	45
き	社会保険労務士法人 キシモト人事労務	58
く	(株)草津温泉	61
	税理士法人 九段会計事務所	55
け	(株)警備サービス輝	59
	(株)京葉マツヤデンキ	45
こ	甲府一高59会	表4
	甲府一高昭和61年卒業生一同	48
	甲府一高湘南同窓会	57
	医療法人社団 孝和会 能見台パトリア	45
	(株)コスモエナジー	61
さ	さいとうクリニック	59
	茶房どんぐり	59
	山日YBSグループ	56
し	(医)慈広会介護老人保健施設メイプル	55
	清水 喜彦	56
	シミックホールディングス(株)	50
	(株)SHOEI	59
	(株)正直堂	60
	昭和42年卒一同	60
	昭和48年卒有志	58
	昭和49年卒業生	55
	昭和51年卒業生(東京51会)	53
	昭和53年卒業生(東京53会)	58
	昭和57年卒東京同窓会(T E A M 57 T O K Y O)	52
	昭和59年卒業甲府一高サッカー部	49
	(株)昭和鉄工	60
	心理臨床オフィス・ルーエ 深沢 孝之	60
す	須貝整形外科	60
	すが建設	59
	鈴木製菓(株)	56
	住友不動産(株)	60

た	大志堂薬局	60
	泰和電気工業(株)	55
	(株)高野塗装店	57
	(株)タカラレーベン(MIRARITHホールディングス)	56
	武田神社	60
	(株)たまパッケージ	61
ち	TEAMロクゼロ 甲府一高昭和60年卒業生	46
	(株)千代田セレモニー	51
て	(有)ディレクターズ東京	53
	(株)でり坊	61
と	東京三一会有志(6社)	45
	東京三五会(昭和35年卒業生有志)	61
	東京38会	55
	東京四四会	52
	東京47会(昭和47年卒)一同	60
	東京一高S58	49
	(株)東和	58
な	(株)内藤ハウス	50
	(有)中川看板店	60
	中澤経理事務所	57
	(株)中嶋文夫+D・A設計事務所	57

に	201ゴルフ	54
	日新会ゴルフ同好会	58
	二宮 公俊	47
	日本情報産業(株)	60
	財団法人 日本盲導犬協会	45
	(株)ニュー平和	59
ね	ネットトヨタ甲斐(株)	57
は	(株)はくばく	51
	(株)早野組	表2
ひ	ひはらクリニック	57
	百新会一同(昭和56年卒業生)	58
ふ	(株)フォネットグループ	54
	富士観光開発(株)	61
	富士島建設(株)	53
	フリーワークサービス	60
へ	(株)ベストアドバイス	56
ほ	(株)ホテル東京	50

み	ミートプラザよだ	59
	みかみ歯科医院	59
	(有)宮川レッカー	59
む	(株)ムトウ山梨	59
め	明和税理士法人	61
も	医療法人社団望月耳鼻咽喉科	53
	(株)望月商会	58
や	(株)山梨新報社	59
	(株)山文	45
ゆ	(株)UG都市建築	57
	ユタカ電機(株)	59
よ	社会福祉法人 四つ葉福祉会	59
ら	らうめん麵喰	59
	(株)ランウイズ・パートナーズグリーンフォーリア	61
り	林野内科医院	58
わ	特定非営利活動法人 わたげの会	52

2023 年 協賛者
日新鐘 協賛者
協賛者

(敬称略)

本年も多数のご協賛をいただき、
誠にありがとうございました。

- (株)アールピージージャパン 窪田 司 (昭和52年卒)
- アソシアコーポレーション(株) 三浦 博美(昭和58年卒)
- 池田 秀雄(昭和43年卒)
- 一瀬 謙輔(昭和35年卒)
- 遠藤工業(株)
- 王文社(昭和58年卒)
- 岡島 加代子(昭和62年卒)
- 小河原 正巳(昭和34年卒)
- 小田切 仁(昭和56年卒)
- 串揚げ深沢亭
- 小泉 敦夫(昭和29年卒)
- 甲府一高55年卒同窓会(55会)(昭和55年卒)
- 甲府一高59会(昭和59年卒)
- 甲府ベイウイン・イマフク 今福 勝(昭和59年卒)
- 駒形 かおる (昭和58年卒)
- (有)サイキ商事 レストラン PAISAIKI 齋木 雅司(昭和63年卒)
- 齊藤 透(昭和60年卒)
- 齊藤 雅行(昭和59年卒)
- 阪本 容一(昭和59年卒)
- 佐野 淳(昭和59年卒)
- 佐野 直樹(昭和54年卒)
- 塩野 哲志(昭和47年卒)
- 島田 敏男(昭和52年卒)
- 清水 昭(昭和44年卒)
- 大栄土木建設(株)
- 田中 哲哉(昭和54年卒)
- 田中 実和(昭和59年卒)
- 谷口 百合子(昭和36年卒)
- 中央葡萄酒(株) 三澤 茂計(昭和42年卒)
- 出羽 隆治(昭和60年卒)
- 中嶋 文夫(昭和46年卒)
- 新津 浩二(昭和59年卒)
- (株)ニシノ建設管理 西野 恵美(昭和59年卒)
- 原 護(昭和40年卒)
- VECTOR(株) 小山 久枝(昭和48年卒)
- 本多 明美(昭和60年卒)
- 南牧スキークラブ有志一同 代表 大澤 敬造(昭和59年卒)
- 向山 敬介(昭和56年卒)
- 向山 美和子(昭和59年卒)
- 望月国際特許事務所 望月 義時(昭和41年卒)
- 望月 高行(昭和59年卒)
- 矢野 秀樹(昭和52年卒)
- 山本 淳仁(昭和58年卒)
- 山本 秀彦(昭和41年卒)
- 依田 良宗(昭和38年卒)

この他にも多数のご協賛をいただきました。

東京三一会 有志



株式会社

山 文

ワイヤロープ 土木建設資材・工事 太陽光発電 消防・防災機器

代表取締役会長
福岡経済同友会常任幹事筑豊委員長
廣 瀬 彰 義
(昭和31年卒)

本社 〒820-0004 福岡県飯塚市新立岩1番20号
TEL 0948(22)0215
支店 福岡 北九州 東京 加工工場 飯塚 北九州
<https://www.kabu-yamabun.co.jp/>



てんぷらの老舗

木挽町

天 國

株式会社 甲斐國

代表取締役 剣持甲斐太郎 (昭和31年卒)
新宿高島屋レストランパーク14階
TEL 03-5361-1875



ハードオフ・オフハウスFC加盟店運営会社
株式会社 京葉マツヤデンキ

代表取締役 青柳守彦
(昭和31年卒)

本部 / 〒272-0823 千葉県市川市東菅野 2-19-22
TEL.047-325-7571 FAX.047-325-7572

ハードオフ
柏豊四季店 / 〒277-0863 柏市豊四季 224-6
TEL.04-7147-7188 FAX.04-7146-0530

市川大野店 / 〒272-0804 市川市南大野 1-14-10
TEL.047-303-5586 FAX.047-303-5587

オフハウス
柏豊四季店 / 〒277-0863 柏市豊四季 224-6
TEL.04-7144-2384 FAX.04-7146-0530



医療法人社団 孝和会 介護老人保健施設
能見台パートリア



案内図



名誉会長 柳澤和孝
(昭和31年卒)

理事長兼施設長 柳澤和裕

事務長 佐々木隆行



特定公益増進法人
財団法人 日本盲導犬協会
JAPAN GUIDE DOG ASSOCIATION

理事長 井上幸彦
(昭和31年卒)

東京本部 TOKYO Office
150-0045 東京都渋谷区神泉町21-3-3F
TEL (03)5452-1266 FAX (03)5452-1267

カーサ・フェルテ

〒146-0092 東京都大田区下丸子3-27-15 オーナー 岩本福喜 (昭和31年卒)

- 101 ギャラリー・フェルテ(画廊)
- 102 花島歯科
- 103 お菓子と結び(洋菓子店)
- 201~206 ワンルーム賃貸

祝 第63回 甲府中学 甲府一高 東京同窓会

甲斐の国
み中に建ちて
古へゆ 雄心伝へ
新しき 世の鑑とし
勉めてむ この学舎に



第64回(2024年) 甲府中学・甲府一高東京同窓会の当番幹事を担当させていただきます
皆様のご指導ご協力を宜しくお願い致します

TEAM〇クゼロ 甲府一高昭和60年卒業生一同

【URL】 <https://www.facebook.com/ichikodamashii.TEAM60/> 【Mail】 ichikou60@yahoo.co.jp



祝 第63回 甲府中学・甲府一高 東京同窓会

昭和 55 年度卒業 二宮 公俊

起て撃て勝て

起て撃て勝て

甲府一高 一高

その名ぞ我が母校

仰ぐ芙蓉の峰さやか

穹天まさに轟かむ

見よ精鋭の集へるを

結べる眉に必勝の

誓ひは固しわれらが精鋭

おお

起て撃て勝て

甲府一高 一高

その名ぞ我が母校



あとべ心の クリニック

院長 跡部 勝
山梨県甲府市増坪町541-3
TEL:055-243-1020

www.atobe-kokoro.com



甲府一高昭和61年卒業生一同



未来first

東京同窓会

絆 という宝物を胸に
がんばるじゃんけ

東京一高S58

昭和59年卒業 甲府一高サッカー部

(顧問：鈴木 正雄 先生)



- ・ 赤澤 泰
- ・ 今福 勝
- ・ 上野 貴章
- ・ 遠藤 恵介
- ・ 齋藤 茂樹
- ・ 鈴木 茂
- ・ 中村 武
- ・ 新津 浩二
- ・ 山本 勝実
- ・ 近藤 あゆみ
- ・ 角田 きみえ

【振り向くな 君は美しい】

唄：ザ・バーズ 作詞：阿久悠 作曲：三木たかし

うつ向くなよ ふり向くなよ (うつ向くなよ ふり向くなよ)

君は 美しい 戦いに敗れても 君は 美しい

今ここに青春を刻んだと グランドの土を手にとれば

誰も涙を笑わないだろう 誰も拍手を惜しまないだろう

また逢おう (また逢おう) いつの日か (いつの日か)

君のその顔を忘れない ♪



[高校サッカー関連著作物出所：日本テレビHD株)H/Pより引用]

料理の宿

伊豆の州

The inn of the dish
IZU no UMI

伊豆のうみは、伊豆高原・浮山温泉郷、閑静な高級別荘地の奥にひっそりと佇む、自然豊かな小さな料理宿です。伊豆に集う本物の素材、旬の食材をふんだんに使った最上の美食。「美味しい」がなにより癒しとなり、旅を彩る想い出となり、忘れられないおもてなしとなります。

- 客室数六室(全室露天風呂付)
- 貸切露天風呂有
- 個室お食事処

TEL 0557-54-0102
〒413-0232 静岡県伊東市八幡野 1741-204






美食の館として多くのファンを有したホテル東京。おもてなしの総てを注ぎ込んだ旨し宿。
 四季の旨しもの料理理めて。





料理の宿

伊豆の花

IZU no HANA

伊豆の花は、伊豆のうみの姉妹店として令和5年4月にグランドオープンいたしました。竹林に佇む小さな離れ宿。新鮮な伊豆の幸が奏でる美食の詩に酔う。

客室露天風呂から望む景色の先には伊豆大島。ぜひ、くつろぎのひとときをお過ごしください。

- 客室数七室(全室露天風呂付)
- 貸切露天風呂有
- 個室お食事処

TEL 0557-51-4187
〒413-0231 静岡県伊東市富戸 1169-20





Pharmaceutical Value Creator

ヘルスケア分野の革新を目指し 挑戦を続けます

シミツクホールディングス株式会社
代表取締役 CEO 中村 和男 (昭和40年卒)

甲府駅南口から徒歩 1分

城のホテル

Shironohotel Kofu

甲府の街を一望する露天風呂と
山梨の伝統文化でお出迎え

〒400-0031 山梨県甲府市丸の内 1-4-18
☎ 055-233-7110

株式会社 **内藤ハウス**
専務取締役 飯島 登美夫 (昭和45年卒)








Staple Foods Frontier

～ 穀物の感動的価値の創造 ～

The Kokumotsu Company

人と穀物をおいしさと健康で結ぶ

本社・工場 / 〒409-3843 山梨県中央市西花輪4629
お客様相談室(受付時間9:00～17:00 土曜・日曜・祝日を除く) TEL.0120-089890

株式会社 はくばく
www.hakubaku.co.jp

医療法人社団 松田会



荒川外科肛門医院

肛門疾患手術 胃・大腸内視鏡検査 痔核注射療法

・女性医師常勤 ・日曜午前も診療 ・入院設備有 ・点滴鎮静麻酔による検査実施

院長 **松田 好雄**
(昭和35年卒)

松田 大助・大高 京子・山村 冬彦

JR常磐線 三河島駅より徒歩5分 京成線 新三河島駅より徒歩5分 千代田線 町屋駅より徒歩8分

03-3806-8213

東京都荒川区荒川4-2-7
(荒川区役所近く)

千代田セレモニーグループ

株式会社アピオセレモニー

〒409-3897 山梨県中巨摩郡昭和町西条 3600

アピオ セレモニー

☎055-222-1212 (葬儀)

アピオ グランドステージ

☎055-222-1111 (婚礼・衣装)



HOTEL 春日居

〒406-0004 山梨県笛吹市春日居町小松 855

☎0553-20-2000



祝

第63回 甲府中学・甲府一高東京同窓会

～たて・よこ 織りなす絆～

東京四四会

特定非営利活動法人 わたげの会

共同生活援助事業所 フォルティナ

共同生活援助事業所 ファミール



所長 山本 淳仁 (昭和58年卒)

〒400-0011 山梨県甲府市積翠寺町1003番地 TEL.055-253-2611 FAX.055-253-0881

祝 第63回 甲府中学・甲府一高東京同窓会



TEAM57 TOKYO

S57年卒東京同窓会一同



現在(いま)をまもり、未来をつくる

富士島建設株式会社



祝

第63回 甲府中学・甲府一高
東京同窓会

未だ日日新

昭和51年卒業生(東京51会)一同

祝 第63回 甲府中学 甲府一高 東京同窓会

兔追ひし彼の山
小鯛釣り彼の川
夢は今も巡りて
忘れ難き故郷



医療法人社団

望月耳鼻咽喉科

東急田園都市線・小田急江ノ島線 中央林間駅

理事長・医学博士 望月 高行 (昭和59年卒)
社)日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会専門医

私たちと**TV番組**を作ませんか?
制作スタッフ大募集!! (未経験者 大歓迎)



有限会社ディレクターズ東京

D&S TOKYO

〒105-0011 東京都港区芝公園1-3-8 松木ビル 4階
Tel: 03-5733-0830 / Fax: 03-5733-0833
HP: <http://www.dstokyo.co.jp>

難病の子どもたちのためのキャンプ場
あおぞら共和国を支援しよう!

みんなのふるさと 7月発刊予定
あおぞら共和国物語

甲府中学・甲府一高同窓生の皆様に、ご寄付のお願いをしてきました「みんなのふるさと夢プロジェクト」(難病の子どもたちのためのキャンプ場(あおぞら共和国=北杜市白州町-レスパイト施設)の建設)も、おかげさまで順調に進行しています。多くのご支援を賜り、心より御礼申し上げます。引き続きご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。この度、「あおぞら共和国」の意義と素晴らしいさを伝える小冊子を作成しました。ご興味のある方はぜひ、ご連絡をお願いします。

甲府一高あおぞら会 会員募集中

〒252-0233 神奈川県相模原市中央区鹿沼台1-7-7 おぐちこどもクリニック内
甲府一高あおぞら会行 <https://ymkp.net/aozora/>

おぐちこどもクリニック院長 小口 弘毅 (45年卒)

axis.architects

一級建築士事務所 アクシス.アーキテクト
S60卒 代表 齊藤 透 建築家

神楽坂オフィス

〒162-0825 東京都新宿区神楽坂3・2・33・301

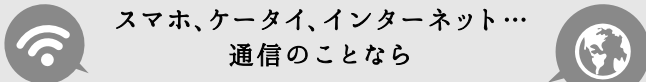
国立オフィス

〒186-0003 東京都国立市富士見台4・41・1・612

e-mail axis@krd.biglobe.ne.jp

axis.architects0205@gmail.com

<http://axis-arch.net>



フォネットグループ

<https://phonet.jp/>



フォネットグループCEO
清水 栄一
(昭和55年卒)

フォネットグループCOO
上田 昌之
(昭和55年卒)

第25回 201ゴルフ会

日時 令和5年3月12日(日曜日)

場所 境川カントリー倶楽部

【参加及び協力金提供の皆様】

S56年卒 大沢正聖・依田訓彦・山田健児・草塩哲也・渡辺稔・小田切仁
協力金: 中込美由紀・土屋浩之・堀内朋美・雨宮真寿美・小宮山洋子

S57年卒 中山辰人・太田清士(第3位)・鈴木天洋
協力金: 上田俊彦・杉山誠・飯野信一

S58年卒 山本淳仁・赤池俊樹(準優勝)・藤巻信哉・鈴木伸幸・成澤薫(優勝)

S59年卒 森川茂樹・望月高行

S60年卒 塚原理宏・小宮山亮
協力金: 中村哲

S63年卒 上田和男・望月歩

H01年卒 堀内貴弘・保延達彦・窪田智春
協力金: 西井真由美・小林康洋

H02年卒 高野芳太郎



笠井クリニック
KASAI CLINIC

院長 医学博士 笠井 富貴夫
社日本内科学会認定内科専門医

診療科目	特殊外来	当院の3つのお約束	1. 待ち時間を短くします 2. やさしさと笑顔を忘れません 3. 病状、お薬の説明を怠りません
内科 小児科 心療内科 胃腸科 皮膚科 内分泌代謝科 尿もれ	糖尿病/高血圧/甲状腺/肥満 /肝胆脾胃腸/高脂血症/心療 内科/花粉症/ピアス/ニキビ /スキンケア外来(ニキビ、ア レルギー、アトピー、急性・慢性 の皮膚トラブル)/各種診療	企業・住民健診事業	どんなことでもご質問ください。
		随時受付	大駐車場あり
		診療時間(休診日:水・日・祝日)	福生市加美平
		平日/AM9:00~12:00 PM3:00~7:00	1-15-6
		土曜日/AM9:00~12:00	フルヤビル1F
		☎042-551-6611	福生駅東口(駅のそば) ①駅から2分目 ②バス停前
		http://www.kasai-clinic.com/	

開発設計

代表取締役 大澤 敬造 (昭和59年卒)

有限会社 アンリミット・ジャパン

試作

量産



アイデアをかたちにする ものづくりの会社です。
出来ない仕事はない!
ご相談をお待ちしています。

Be ambitious.

〒206-0025

東京都多摩市永山 1-1-4 プレゾンビル 203

TEL: 042-355-7110 FAX: 042-355-7118

E-mail: info@unlimit-j.co.jp HP: <http://www.unlimit-j.co.jp>



配電盤・制御盤・継電器メーカー

泰和電気工業株式会社

代表取締役会長 **小泉 敦夫**
(昭和29年卒)

〒105-0013 東京都港区浜松町 2-7-16
第3小森谷ビル 2F
TEL 03-3432-2521 FAX 03-3432-2527



税理士法人

九段会計事務所

困ったことを

いつでも相談できる!

九段会計事務所

経営者のパートナーとして
一緒に悩み、一緒に解決する

それが九段会計事務所のスタイルです

〒102-0074

東京都千代田区九段南 4-3-1 滝ビル 3F

☎ 03-3222-5271 平日 9:00 ~ 18:00

ホームページ: <https://www.kudan-tax.jp/>



祝

甲府中学・甲府一高東京同窓会

令和5年 卒業60年

東京38会

100年時代を 自分らしく...



医療法人社団 慈広会
介護老人保健施設

メイプル

昭和44年卒 三神 俊史

昭和35年卒 矢崎 浩

祝

 第63回 甲府中学・甲府一高 東京同窓会

昭和49年卒業生一同

S49甲斐犬
のイチコウ



末永い同窓会のご発展と皆様のご健勝を祈念しております。

大泉はなわクリニック

院長

花輪 滋

(昭和41年卒)

〒178-0063 東京都練馬区東大泉 1-28-7
フオンターナ琴坂 6F
TEL (03) 5933-3870

MIRARTH ホールディングス
Takara Leben

レーベン甲府丸の内 GRAVIE
総戸数 / 78 戸 竣工予定 / 2024 年 2 月下旬

株式会社タカラレーベン
〒100-0005 東京都千代田区丸の内 1-8-2 鉄鋼ビルディング 16 階

暮らしの安心と快適を提案する総合プランナー

株式会社 **オー・エム・シー**
不動産事業部

山梨県宅地建物取引業協会会員 山梨県知事免許(4)第2002号

O・M・C inc.
Creation of comfort

TEL. **055-221-7722**
http://www.omcinc.co.jp

〒400-0064 山梨県甲府市下飯田1-3-17
S59年卒 専務取締役 荻野 正吾



一高校章焼印 どうやき

ス 鈴木製菓株式会社

栗しくれ 京桃山

半生菓子。あんから造る
丁寧なひとつ、ひとつ、

代表取締役社長 鈴木 浩文 (S61年卒)

〒400-1508 山梨県甲府市下曽根町3400-1 (山梨県食品工業団地内)
TEL:055-266-5188(代) FAX:055-266-3681
info@suzukiseika.co.jp

B 株式会社ベストアドバイス
TRUSTED SINCE 1992

井上 隆 (昭和54年卒)

〒171-0022 東京都豊島区南池袋1-16-4 NKビル1F
T. ☎0120-010-492 F. ☎0120-894-492

ISO 9001 JAC QCNL0042 UKAS 0951

www.bestadvice.co.jp
info@bestadvice.co.jp

!

あなたの、いちばんメディア。

山日YBSグループのシンボルマークです。もっともっと、ドキドキさせたい! ワクワクさせたい! その「! =ビックリマーク」をモチーフに、S(山日)とY(YBS)のどちらでもイメージさせるユニークなフォルムです。「あなたの、いちばんメディア」をスローガンに、次から次へ、新鮮な驚きと、新しい感動を、お届けしてまいります。

山日YBSグループ

山梨日日新聞社	日本ネットワークサービス
山梨放送	ファーストビジョン
アドブレーション社	デジタルテレビジョン
サンニチ印刷	ウインテック コミュニケーションズ
YBS T&L	新聞センター
山梨ニューメディアセンター	山日リース
山梨文化学園	山梨文化会館

Sannichi YBS Group

甲府市北口2-6-10(〒400-8505) 電話番号案内 055-231-3000

YAMANASHI **YHC**
Yamanashi Hydrogen Company, Inc.

山梨県人会連合会 会長
株式会社 やまなしハイドロジェンカンパニー 会長

清水 喜彦
(昭和 49 年卒)

長寿命化

遮熱・断熱
ガイナ塗装

防水・防汚

(平成2年卒)

一般社団法人 日本塗装工業会会員
山梨県塗装協同組合会員
遮熱塗料・高日射反射率塗料施工

株式会社 高野塗装店

代表取締役 高野芳太郎

〒400-0026 甲府市塩部3丁目1-24
TEL: 055-252-5486
FAX: 055-251-2717

E-mail: takano@am.wakwak.com

URL: https://www.takanotoso-nurikae.com/



創業明治18年



UG都市建築

代表取締役社長 山下昌彦 (昭和45年卒)
〒160-0004 東京都新宿区四谷三丁目12番地 フロンティア四谷5F
TEL 03-5369-3120 FAX 03-5369-3600 URL http://www.ugt.co.jp

祝

第63回 甲府中学・甲府一高 東京同窓会

甲府一高 湘南同窓会

<http://ichikoshonan.livedoor.blog/>



会長 丹沢 富雄 (昭和40年卒)

幹事長 堀口 修 (昭和44年卒)

OUTERIOR
AKAZAWA
Co.,LTD



赤澤忠彦
アカザワタダヒコ
(S59年卒)

有限会社アウトテリアあかざわ

〒400-0003
山梨県甲府市塚原町 587
TEL 090-3337-2048
FAX 055-253-4443
MAIL auteriaakazawa@gmail.com

設計監理

- 分譲マンション ●事務所ビル
- 賃貸マンション ●テナントビル
- 住宅 ●教会他

一級建築士事務所
株式会社 中嶋文夫+D・A設計事務所

代表取締役
一級建築士 中嶋 文夫
(昭和46年卒)

〒180-0006 東京都武蔵野市中町2-5-24 中嶋ビル4階
TEL: 0422-51-8417 (代表) FAX: 0422-51-8436 (代表)
0422-51-8140 0422-51-1146 (専用)
E-mail: da-sekkei@tokyo.email.ne.jp
<http://www.ne.jp/asahi/da-sekkei/nakajima>

トヨタ ネットトヨタ甲斐

トヨタ車「全車種」 新型プリウス

取扱い致して
おります



中古車 メンテナンス
通信 保険

新車・中古車情報、
店舗情報
はこちらから



中澤経理事務所

税理士 中澤 謙一郎 (昭和53年卒)

村松 直樹 (昭和58年卒)

〒400-0031 甲府市丸の内一丁目14-3
TEL(055)235-1296 / FAX(055)235-1280



ひはらクリニック

日原 徹 (昭和52年卒)

〒158-0094 東京都世田谷区世田谷玉川3-21-10 ドミルチエ 1F
TEL 03-3708-2005

林野内科医院

院長 林野久紀 (昭和48年卒)
林野妙子 (昭和48年卒)

〒400-0117 山梨県甲斐市西八幡2436
TEL 055-276-2816 FAX 055-276-8935

祝

第63回甲府中学・甲府一高東京同窓会

永遠の1(一)高


～未来への襷～

Ask what we can do in TOKYO for ICHIKO
昭和53年卒業生(東京53会)一同

祝

48クラブ

昭和48年卒 有志

 株式会社 東和

一般貨物自動車運送事業・取扱事業・貸倉庫業

本社営業所
〒400-3853 山梨県中巨摩郡昭和町築地新居 1598-3
TEL 055-275-1080 FAX 055-275-1081



社会保険労務士法人 キシモト人事労務
～人事、労務問題のよろず相談承ります～

代表社員
所 長

岸本 滋
KISHIMOTO SHIGERU
社会保険労務士 CFP®



〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-3-8 第5スカイビル402
TEL/FAX 03-6804-3901 <http://www.kishimoto-sr.jp/>

私たちは甲府中学・甲府一高東京同窓会
広告部会 大澤 敬造さんを応援しています。

祝

第63回 甲府中学・甲府一高 東京同窓会

日新会ゴルフ同好会



祝



第63回 甲府中学・甲府一高東京同窓会

Boys be Ambitious!

William Smith Clark

百新会一同 (昭和156年卒業生)

◎宝石・貴金属・製造仲間卸
◎不動産賃貸業 アパート・マンション・貸ビル店舗

 株式会社 望月商会

代表取締役社長 望月正美
取締役 望月聖二 (昭和58年卒)

本社：山梨県甲府市湯田二丁目 19-9
TEL.055-237-0355 FAX.055-226-1670



みかみ歯科医院

三神 厚 S48年卒 三神 智美 S50年卒

〒187-0032 東京都小平市小川町2-1971エッグビル2F TEL042-345-3060
http://www.mikami-dental.jp



IJPOWERS株式会社

- 環境リサイクル
- 国内外ロジスティクス
- 事業用不動産
- メディアプランニング・クリエイティブ企画制作

代表取締役 朱宮 明美 (S54年卒)

東京本社 〒165-0026 東京都中野区新井1-11-8-3F
TEL.03-5942-8622 FAX.03-3388-8268
横浜支社 〒231-0023 神奈川県横浜市中山区1番地シルクセンター215
TEL.045-264-9225 FAX.045-264-9227
甲府支社 山梨県甲府市丸の内2-32-5 ラ・レジダンス・ド・グロワール412



患者様の“笑顔”を“材料”でサポートします。

〒400-0115 山梨県甲斐市権田19-45
TEL.055-276-5388 FAX.055-276-5385

株式会社

SHOEI

Human, Handcraft, Creative

〒400-0014 山梨県甲府市古府中町4914-1



ユタカ電機株式会社

〒400-0113 山梨県甲斐市富竹新田1355



不動産鑑定評価・建物状況調査

株式会社アセツアールアンドディー
東京都新宿区信濃町12-1信濃町SANMOビル8階
TEL 03-5366-0421 〒160-0016
HP <https://assets-rd.jimdofree.com/>

代表取締役 飯窪 光隆 (昭和53年卒)
不動産鑑定士 一級建築士



さいとうクリニック

院長 齊藤 昭人 (S47年卒)

〒257-0034 神奈川県秦野市大秦町1-8 トミービル3F
TEL.0463-84-5222

有限会社 宮川レッカー

代表取締役

宮川 勇徳

Miyagawa Takenori

(S62卒)

本社 〒409-3803 山梨県中央市若宮22-13



太陽光発電取扱店

すが 建設



代表 須賀 俊夫

一級建築士 須賀建設一級建築士事務所

〒400-0007 甲府市美咲2-8-12 TEL&FAX 055-254-7567
E-mail: t-t-suga@mx2.nns.ne.jp



交通誘導警備・イベント警備・駐車場警備

株式会社 警備サービス輝

取締役副社長 齋藤 清仁 (S54卒)

〒400-0047 山梨県甲府市徳行二丁目16-28
TEL (055) 231-5560 MAIL kagayaki@honey.ocn.ne.jp
FAX (055) 287-6331 WEB <http://kagayaki-keibi.co.jp/>



COFFEE LOUNGE

〒400-0024 甲府市北口2-4-1
TEL 055-252-0983

<http://www.coffee-donguri.com/>



山梨新報

毎週金曜日発行

株式会社 山梨新報社 甲府市湯田2-9-8 UTY会館内 ☎055-237-8121



笑顔いっぱい・元気いっぱい・あふれる心くばり

(株) ニュー平和

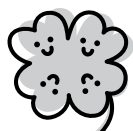
甲府市伊勢4-34-10 TEL055-237-9450(代)



カースタレンタカー

甲府市伊勢4-31-1 TEL055-231-5921

セルフ&カーケア 湯村店・平和通り店・貢川店
車検 & 修理センター・钣金 & 塗装センター



社会福祉法人 四つ葉福社会

クローバー保育園

病児・病後児保育室「よつば」

〒400-0111 山梨県甲斐市竜王新町2117-3 電話 055-276-9680



Fresh Meat & Home made Delicatessent

ミートプラザ よだ

斉藤 義一

〒400-0123
山梨県甲斐市島上条187-4
TEL 055(277)2037
FAX 055(277)6311

URL <http://www.mp-yoda.com>
E-mail: info@mp-yoda.com



イソベトヨー住器株式会社

〒400-0115 山梨県甲斐市篠原2005
TEL.055-279-1134 FAX.055-279-7878

住友不動産

〒163-0822 新宿区西新宿 2-4-1 新宿 NSビル 22 階
中村 芳文 (S44年卒)



株式会社 エミューライフサポート

山梨県知事登録(30)第296号

代表取締役 日向 賢利

〒400-0108 山梨県甲斐市宇津谷 4585-17
TEL&FAX.0551-88-9051 MOBILE.080-1334-1253
info@emu-life-support.com

総合メンテナンス

祝

第63回東京同窓会

昭和42年卒一同

心理臨床オフィス・ルーエ

カウンセリング、心理療法、メンタルヘルスの研修に

代表：深沢 孝之 (昭和59年卒)
(公認心理師、臨床心理士、臨床発達心理士)

対人関係、うつ、発達障害、トラウマ等様々な心の問題の支援をしています
甲府市酒折2-2-7ワールドプラザビル306 TEL.055-269-7085
<http://office-ruhe.jimdo.com/>

株式会社 正直堂

FWS フリーワークサービス

代表 平塚 今朝男

〒400-0123 山梨県甲斐市島上条 783-2
TEL/FAX 055-277-1883 MOBILE 090-3340-7621

保険薬局

大志堂薬局

どちらの処方箋も受け付けます

〒154-0004 東京都世田谷区太子堂 3 丁目 20-7
TEL・FAX：03-3411-9115



「和」のある空間提案

小澤 豊 工業所

一級 豊製作技能士
品質管理責任者

小澤 一幸 平成2年卒

〒400-0071 山梨県甲府市富士見 2-8-19
TEL:055-251-2948 FAX:055-251-1177
☎0120-51-2948 携帯:090-3242-7339



有限会社 中川看板店

〒400-0112
山梨県甲斐市名取676-3
TEL(055)206-0353
FAX(055)206-1184
mail: sign-n@nns.ne.jp

株式会社 昭和鉄工

代表取締役 坂橋明好 (昭和61年卒)

〒409-3862 山梨県中巨摩郡昭和町上河東 410
TEL:055-275-2134 FAX:055-275-2120
E-mail: syouwatekkou@luck.ocn.ne.jp



祝 第63回東京同窓会

東京47会(昭和47年卒)一同

医療法人 幸仁会

須貝整形外科医院

院長 須貝 敦 (昭和58年卒)

(社)日本整形外科学会認定 整形外科専門医

NII



循環器・内科

浅利クリニック

院長 浅利 秀男 (昭和40年卒)

神奈川県座間市座間 2-236-4
TEL 046-255-8611

甲斐武田氏三代居館「躰躰崎館」跡鎮座

甲斐國総鎮護

武田神社

令和5年(2023)御祭神 武田信玄公 御神忌450年

※元龜4年(1573)4月12日 享年53歳

〒400-0014 甲府市古府中町2611
電話 055-252-2609 FAX 055-252-2600

草津温泉

加温加水せずに
源泉掛け流しの天然温泉です

甲府市上石田1-10-12

TEL 055-222-4216

堀内 美保 昭和58年卒



合同会社イズマタ

ワイナリー **Domaine Kyoko Hosaka** 準備室

平成3年卒 保坂 香子

〒407-0024 山梨県韮崎市本町1-8-1

花に触れ、花に癒される。

NFD公認校

Green Foglia

東京・神奈川から。新百合ヶ丘のフラワーアレンジメント教室

代表 渡邊もとみ(S59年卒)
Web <http://www.greenfoglia.com>



出光興産販売店

有限会社 小野商事

会長 小野 勝己 (昭和31年卒)

〒400-0805 山梨県甲府市酒折2丁目1-13

TEL (055) 23-8377 FAX (055) 235-4977

昭和59年卒

子育て環境コーディネーター

青柳 広美

(Aoyagi Hiromi) (旧姓 小野)



認可保育園園長 / 保育士資格 / 小学校・幼稚園教諭免許

◆保育園・育児全般・男性育児休暇等研修承ります◆個人向けベビーシッター応相談
ショートメール 090-9326-8767

優れたソフトウェアを開発する「e職人」のプロ集団です



株式会社
コスモエナジー

代表取締役 軽石 泰孝 (昭和50年卒)

〒171-0033 東京都豊島区高田2-18-23 シャトー目白2F

TEL:03-3986-0048 FAX:03-3986-5794

<http://www.cosmoenergy.co.jp/>

自動車部品の製造、組立、物流



株式会社 **たまパッケージ**

代表取締役 太田 清士 (S57年卒)

本社 〒350-1302 埼玉県狭山市東三ツ木 40-1

TEL 04-2969-1055 FAX 04-2969-1057

E-mail:k.ota@tamapackage.co.jp

祝

東京三五会

昭和35年(1960年)卒業生 有志

「自然と人間との調和」を基本理念に



富士観光開発 株式会社



FC ふじざくら山梨 応援よろしくお願いします!

明和税理士法人

代表社員
公認会計士/税理士

小林 明人

(昭和53年卒)

〒102-0072 千代田区飯田橋2-5-2 エマナカビル

TEL 03(5215)1196 FAX 03(3221)7836

おいしいお魚と旨い地酒 各種宴会承ります。

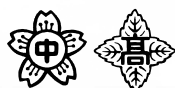
築地 魚よし

田中與志子 (昭和50年卒)

〒105-0001 港区虎ノ門5-2-8 加賀ビル2F

TEL 03-3433-5611

東京メトロ日比谷線神谷町駅2番口 徒歩1分



本年も多数の広告掲載

誠にありがとうございました

養天池

椅日新日

縣立甲府第一高等学校

編集後記

日新鍾Vol.29の編集を終えることができました。
今年の日新鍾を作成するにあたり、当番幹事の打ち合わせで色々な意見が出ました。その中で大きかった声として、現在の一高の様子が知りたいというものでした。幸い、取材を許していただき、在校生皆さんや顧問の先生にもご協力いただき、校内のいろいろなところを写真におさめることができました。

また、もう一つこだわった点として、多くの人に寄稿していただき、みんなでこの日新鍾を作っていこうということがありました。

大きく「コロナ禍」集いをテーマに多くの人に寄稿していただくことができました。
急なお願いにもかかわらず、快く対応していただき感謝しています。

広告につきまして、今までを大きく上回る企業・団体・個人の方々にご協力いただくことができました。本当にありがとうございます。広告部会の皆さんもお疲れさまでした。

今年の記念誌部会は素人の集まりということもあり、いろいろなことが手探り状態でした。その中で、59会の幹事の皆さんにはいろいろとご協力いただきました。また、編集・印刷をご担当いただいた王文社様にも感謝申し上げます。

お礼ばかりになってしまいますが、本当にありがとうございます。

令和5年度当番幹事(昭和59年卒)

幹事	森川茂樹
事務局長	中田正久
副幹事長	今福勝・田中一司・田中実和
事務局/IT/会計	中田正久・西野恵美・小野裕子
広告部会	今福勝・大澤敬造・上野貴章・望月高行・長谷川勝仁 荒牧徹哉・青柳広美・大澤潤子・荻野正吾・中村武 赤澤忠彦・千野英治・齋藤茂樹・佐野淳
記念誌部会	田中一司・赤池裕司・望月高行・林美奈子
懇親会部会	田中実和・長沼秀昭・跡部秀夫・石川優子・中山真由美 関口頼子・渡邊もとみ・山崎奈緒美
一紅会担当	小野裕子・西野恵美

2023甲府中学・甲府一高東京同窓会記念誌

日新鍾 Vol.29

発行日 2023年7月8日
発行者 甲府中学・甲府一高東京同窓会
編集者 日新鍾部会(昭和59年卒)
印刷・製本 王文社

集おう 語ろう つながろう

集おう 語ろう つながろう!

～同じ学会の仲間たちと～

第63回 甲府中学・甲府一高東京同窓会

ここ数年猛威を振るった新型コロナウイルス感染症
私たちの生活は一変し、私たちから多くのものを奪っていききました
そんな中でも私たちは頑張りました

最前線で戦った医療従事者の皆さん、感染症蔓延下で快適な社会生活を維持しようと取り組んだ商店、交通関係、インフラ関係などで働く人たち、子どもたちを守った保育・教育関係者の方々、もちろん、外出を自粛しマスクをし感染を拡大させないよう過ごした一人ひとり
現時点ではまだ完全にコロナ禍を脱却したとは言えません

しかし、少しずつ以前の生活を取り戻し、明るい希望が見えてきました
コロナ禍で皆が渴望していたもの、それが「集い」「語らい」「つながり」ではないでしょうか
今年の同窓会は、これらを取り戻し、さらに新たなつながりを作っていくというテーマで企画しました

記念誌では、コロナ禍で頑張ってきた人たちの活動の記録や、その時の思いを残していくと、いろいろな方に寄稿していただきました
また、今までのつながりを大切にし、また新たなつながりを作ろうと、同窓生のいろいろな活動を紹介しました

この同窓会をきっかけに、たくさん集いましょう
たくさん語りましょう

そしてつながっていきましょ

